

琵琶湖博物館 年報

5号 平成12(2000)年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

ごあいさつ

琵琶湖博物館も開館以来6年目に入り、この「年報」ももう5冊目となりました。これからの琵琶湖博物館の方針を論じて下さっていた中長期計画検討委員会からも、3年に亘る論議の結果をまとめて、昨2000年度末に報告を頂きました。これを基に次の計画を具体的に立てるために、今年度には基本構想に取り掛かり始めています。

そのような動きの中で、2000年度には、「湖の魚・漁・食（うみのぎょ・りょう・しょく）－淡海あれこれ商店街－」という企画展示を開催しました。琵琶湖で魚を大いに獲りあげ、それをさまざまなかたちで食べていたころ、すなわちついこのあいだの街を再現して、人と湖との繋がりがいかに大きかったかを見て貰えるよう、工夫したものです。これに関連して、「食卓にのぼる湖の魚－霞ヶ浦は今－」という水族企画展示をも行ないました。また、企画展示室を使つてのそのほかの展示でも、滋賀県の各部局との共催のもののほか、博物館が収蔵している資料をお見せしたり、また、写真家中村晴生さんの展覧会など、1999年度にも増して多彩なものを開くことができました。

さらに、「ディスカバリー・ルーム」を利用する子どもたちに、自分のお気に入りの展示を博物館のものの中から選び、それを他の人々に伝える活動も行なつて貰ってみました。始めるまえは一部に、「難しすぎるのではないか」などと心配する意見もあったようですが、結果としては予想以上に好評であり、楽しんで貰ったようで、今後の展示活動を考えるうえでも、大いに参考になりました。また、交流事業でも、前年度に行なつたボランティア制度の検討結果を受けて、「はしかげさん」なるものを8月から開始しました。博物館の事業や研究活動に自主的に参加したい、と思つて下さる人々のための制度です。みんなで創る琵琶湖博物館をさらに進めていく、その大きい助けになることを願つてのものであり、皆さまの積極的な御参加をさらに期待しております。

2000年11月3日、一般公開から4年と十数日で、来館者数は300万人に達しました。数の多いことが良いとは限りませんし、楽しむと同時にさまざまに満足して下さる博物館こそが重要であることは明白ですが、多くの方が何度も足を運んで頂いていることを示す数字でもあり、関係者としてたいへん嬉しいことです。ついでながら、開館4周年を記念し、『博物館を楽しむ－琵琶湖博物館ものがたり』を、岩波ジュニア新書の1冊として出版しました。博物館の学芸員や事務職員だけではなく、それに関係してきた、また現在関係しているいろいろな人々によって書かれた本です。副題のとおり私どもの博物館を材料としてはいますが、最近の博物館の動きを知つて貰い、博物館そのものをいっそう楽しんで頂くためのものでもあります。機会を見つけて一度お目通し下さると、これに勝る喜びはありません。皆さんとともに博物館の活動を考え、今後ともさまざまな試みを進めていきますので、いっそう積極的な御協力をお願い致します。

2001年7月7日

滋賀県立琵琶湖博物館

館長 川那部 浩哉

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館活動の概要	4
1 研究・調査活動	4
(1) 総合研究	4
(2) 共同研究	4
(3) 専門研究	5
(4) 公表された主な研究成果	7
(5) 研究助成を受けた研究	7
(6) 第3回琵琶湖博物館研究発表会	8
(7) 特別研究セミナー	9
(8) 研究セミナー	9
(9) 研究員の受入れ	11
(10) 国際交流活動	11
2 交流・サービス活動	14
(1) 観察会・見学会等	14
(2) 博物館講座「とりあえずしてみよう編」「さあやってみよう編」	15
(3) 田んぼ体験教室	16
(4) 里山体験教室	16
(5) 質問コーナー・フロアトーク	17
(6) 教職員研修会	18
(7) 博物館体験学習	19
(8) 琵琶湖博物館「子ども一日学芸員」事業	20
(9) 「体験学習の日」の活動	21
(10) 家族を対象とした環境学習プログラム エコスクラム「水の旅」の活動	22
(11) 水族展示交流活動	22
(12) フィールドレポーター	22
(13) 夏休み相談室	23
(14) 「はしかけ制度」	23
(15) 博物館実習	24
(16) ワークショップおよびシンポジウム等の開催	25
3 情報活動	27
(1) 館内の情報センター（図書情報利用室）	27
(2) 通信網を利用した館外サービス	27
(3) 資料整備	29
(4) 情報システムの構築	33

4	資料整備活動	34
(1)	収蔵資料	34
(2)	新規収集資料	37
(3)	燻 蒸	39
(4)	資料の貸出	39
(5)	特別観覧許可	40
(6)	資料評価委員	40
5	展示活動	41
(1)	企画展示	41
(2)	水族企画展示	43
(3)	ギャラリー展示	44
(4)	水族トピック展示	45
(5)	展示関連事業	46
6	印刷物	48
II	利用状況	50
1	平成12年度入館者数	50
(1)	総入館者数	50
(2)	学校等入館者数	51
(3)	曜日別入館者数	52
2	来館者アンケート調査結果	53
3	新聞掲載記録	55
4	雑誌等掲載記録	63
5	テレビ放映・ラジオ放送記録	66
III	組織および運営	68
1	組 織	68
2	職 員	69
3	予 算	71
4	滋賀県立琵琶湖博物館協議会	72
IV	博物館利用のご案内	73

※表紙の写真：企画展示「湖の魚・漁・食（うみのぎょ・りょう・しょく）－淡海あれこれ商店街－」の
展示風景

I 博物館活動の概要

1 研究・調査活動

「生物学（自然科学）が対象とするさまざまな生物（自然）だけではなく、人間が形成してきた社会・文化的事象をも視野に入れ、両者を複合的システムとして歴史的・時間軸のなかで捉えるとともに、その複合システムの諸関係の総体を把握するための概念」である「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマを絞った共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、審査委員会による審査の結果、平成12年度は、以下の研究課題が実施された。

(1) 総合研究

「湖と人間」という博物館のテーマにそって、長い時間軸に留意した自然と人間の関係、生物の生息空間の特徴に着目した人間活動を含む生態系の研究、資料を基礎とする博物館の活用法などに学際的・総合的に取り組んだ。総合研究のテーマは、次の3件である。

- ①博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究（代表 八尋克郎）
- ②東アジアの中の琵琶湖—コイ科魚類の展開を軸とする—環境史に関する研究—（代表 中島経夫）
- ③琵琶湖沿岸生態系の構造と動態（代表 芳賀裕樹）

(2) 共同研究

博物館のテーマにそって、博物館の内外の研究者と共同でおこなった。

- ①博物館展示における「ハンズ・オン」の効果とその意義—その誕生の背景と広がり方から未来を探る—
(代表 芦谷美奈子)
- ②屋外展示生態観察池および水路における生物モニタリングに関する研究（代表 楠岡 泰）
- ③琵琶湖集水域における中世村落確立過程の研究—考古資料の分析を中心として—
(代表 橋本道範)
- ④琵琶湖周辺域における過去1万年間の自然環境と人間活動の変遷（代表 宮本真二）
- ⑤滋賀県内におけるオサムシ類の分布（代表 八尋克郎）
- ⑥カワウによる水域生態系から陸域生態系への物質移動とその影響（代表 亀田佳代子）
- ⑦滋賀県における陸産貝類の分布に関する研究（代表 中井克樹）
- ⑧沿岸域モニタリングのための常設型リモートセンシングの運営に関する基礎的研究
(代表 戸田 孝)
- ⑨東アジアにおける淡水棲貝類の生物地理に関する研究（代表 松田征也）
- ⑩琵琶湖の水生植物の種分化と生態分化（代表 山川千代美）
- ⑪琵琶湖周辺の水田利用魚類の生態と人間とのかかわり（代表 前畑政善）

⑫水利形態の詳細復元による地域環境史の総合的把握－扇状地・滋賀県甲良町を事例に－

(代表 脇田健一)

⑬野洲川下流域平野における水田成立期の古環境復原 (代表 宮本真二)

⑭日本と台湾における古琵琶湖層の時代の哺乳動物相の比較研究 (代表 高橋啓一)

⑮滋賀県内の魚類分布調査および琵琶湖博物館収蔵魚類標本の充実 (代表 藤本勝行)

⑯堅田内湖における魚類の生態に関する研究 (代表 桑村邦彦)

⑰環境変遷研究のための今昔映像収集とその理論的展開－日仏における湖と人間の百年を中心として－

(代表 嘉田由紀子)

⑱琵琶湖とその集水域における水生動物の寄生虫相に関する研究 (代表 M.J. Grygier)

⑲琵琶湖堆積盆地の後期鮮新世約250万年前前後の古環境変化と古植生変化 (代表 百原 新)

⑳田んぼにおける大型鰓脚類 (ハウネンエビ・カプトエビ・カイエビ類) に関する研究

(代表 M.J. Grygier)

㉑地球物理学的知見および住民参加型手法の応用による琵琶湖地域の気象情報に関する民俗学的研究

(代表 西之園晴夫)

(3) 専門研究

<湖沼研究系>

- | | |
|-------------------------------------------|-------------|
| ①コイ科魚類の咽頭菌の研究 | 中島経夫 |
| ②琵琶湖における絨毛虫と藻類の共生関係について | 楠岡 泰 |
| ③魚類生物 | A. Rossiter |
| ④滋賀県産淡水貝類の生態学的研究 | 松田征也 |
| ⑤琵琶湖水流動の時間発展の解明および展示手法の開発 | 戸田 孝 |
| ⑥イバラモのシュート群動態と雌雄異株性に関する研究 | 芦谷美奈子 |
| ⑦琵琶湖水系における伝統的資源利用とその変化 | 中藤容子 |
| ⑧琵琶湖等における外来生物に関する研究 | 中井克樹 |
| ⑨琵琶湖歴史環境の世界史的評価に関する研究 | 牧野久実 |
| ⑩琵琶湖沿岸域におけるバクテリアの生態 | 芳賀祐樹 |
| ⑪水域と陸域を結ぶカワウの役割－安定同位体比分析を用いた食性解析と物質移動の解明－ | 亀田佳代子 |
| ⑫鮮新－更新統中に挟在する火山灰層の広域対比 | 里口保文 |

<集水域研究系>

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ①植生と水質調整：一降雨流出時の水質変化の組成解析 | 草加伸吾 |
| ②シンシュウゾウの形態的特徴について | 高橋啓一 |
| ③新生代の植物化石の研究 | 山川千代美 |
| ④オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究 | 八尋克郎 |
| ⑤地域の意志決定から見た歴史的環境保全 | 牧野厚史 |

⑥琵琶湖をめぐる社会関係再構築についての基礎的研究

－いわゆる「外来魚問題」をてがかりに－

矢野晋吾

⑦琵琶湖集水域における付着珪藻の分布について

大塚泰介

⑧双翅目アシナガバエ科昆虫の系統分類と生物地理

榊永一宏

<応用地域研究系>

①農村のは場整備事業の前後と環境に関する研究

内藤又一郎

②日本産ナマズ類3種の繁殖生態

前畑政善

③近江の地域性に関する考古学的研究

用田正晴

④琵琶湖流域に適した水質保全対策施設に関する研究

中川元男

⑤琵琶湖に生息するモクズガニの生態的研究

桑村邦彦

⑥琵琶湖水系に生息するビワマスとアマゴの関係

桑原雅之

⑦最終間氷期以降における古環境変動の高精度復原

宮本真二

⑧滋賀県における樹木の獣害対策と効果について

長崎泰則

<博物館学系>

①博物館利用者の類型化とその特徴

布谷知夫

②淡水魚類の音響行動について（特にギギの音響行動について）

秋山廣光

③甲殻類の系統分類学・海洋無脊椎動物の寄生虫に関する研究

M.J. Grygier

④琵琶湖関係古文書に関する歴史的評価研究

－日本列島における13世紀の社会・経済構造の転換－

橋本道範

⑤地域の特性を生かした高校生物教材の開発

江島 穰

⑥総合的な学習と博物館の連携に関する研究

横山泰史

⑦博物館を利用した環境学習の教材作成

中川 修

琵琶湖博物館総合研究および共同研究審査委員会委員

氏 名	現 職
秋 道 智 彌	国立民族学博物館民族社会研究部 教授
遠 藤 修 一	滋賀大学教育学部 教授
鳥 越 皓 之	筑波大学社会科学系 教授
原 田 英 司	京都大学 名誉教授
横 山 俊 夫	京都大学人文科学研究所 教授
鷺 谷 いづみ	東京大学農学生命科学研究科 教授
河 原 恵	滋賀県教育委員会学校教育課 主査
川那部 浩 哉	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
西 岡 信 夫	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(4) 公表された主な研究成果

研究成果は、琵琶湖博物館研究業績集第5号に収録したのでここでは省略。

(5) 研究助成を受けた研究

川那部浩哉

- ・文部省創成的基礎研究「地域環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」、研究者代表
- ・日本学術振興会重点研究国際協力事業プロジェクト「生物多様性と生態複合」、研究分担者

嘉田由紀子

- ・カーネギー財団、「環境政策における価値観：日米中印4ヶ国比較」、日本チーム代表

中島経夫

- ・日本学術振興会未来開拓学術推進事業「アジア地域の環境保全：地球環境情報収集の方法の確立」、研究分担者

用田政晴

- ・淡海学術研究フォーラム「環琵琶湖地域の生態、文化と保存修景」[琵琶湖がつくる近江の歴史研究会]、共同提案者
- ・アジア考古学研究機構研究調査「台湾の先住民族調査および考古学調査研究」

草加伸吾

- ・試験研究機関共同研究「琵琶湖流入負荷、特に面源負荷の再評価とその削減対策」：森林からの負荷を再評価する上での課題、研究分担者
- ・琵琶湖研究所プロジェクト研究「森林伐採が環境に及ぼす影響」のサブプロジェクト「森林土壌での水質形成過程の把握」、研究分担者

中井克樹

- ・文部省科学研究費創成的基礎研究（新プロジェクト）「地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」湖沼研究班（バイカル湖）、研究協力者

牧野久実

- ・文部省科学研究費補助金基盤研究B「遺跡土壤に含まれる有機遺物の採集・分析法の開発」、研究分担者
- ・文部省科学研究費補助金基盤研究A「イスラエル鉄器時代の都市遺跡の調査研究」、研究分担者
- ・大畠記念宗教史学研究助成基金「キンネレット湖地域におけるヘレニズム化の解明に向けてーエンゲブ遺跡データベースの作成」、研究代表者

亀田佳代子

- ・河川環境整備財団河川整備基金助成事業「琵琶湖集水域生態系におけるカワウの役割」、研究代表者
- ・日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「アジア地域の環境保全：地球環境情報収集の方法の確立」、研究協力者
- ・財団法人井上科学振興財団国際研究集会出席旅費援助（第三回国際陸水学会水鳥ワーキンググループ）

ブ大会)

大塚泰介

- ・河川環境整備財団河川整備基金助成事業「斐伊川水系における水生植物並びに付着藻類の流程分布と環境要因」、研究分担者

梶永一宏

- ・藤原ナチュラルヒストリー振興財団研究助成「東アジアにおける海洋性アシナガバエの種分化と分散」、研究代表者
- ・岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所平成12年度個別共同研究「タテハチョウ科群（アゲハチョウ上科）の系統発生的研究」、共同研究者
- ・河川環境管理財団河川整備基金助成事業「淡水動物の分類基礎研究の組織化と情報の統合」、コアメンバー
- ・日本昆虫学会学会参加費助成（第21回国際昆虫学会）

(6) 第3回琵琶湖博物館研究発表会

開催期日：2000年10月17日（日） 10：30～16：55

会場：琵琶湖博物館ホール

博物館でおこなわれている研究を広く県民に紹介すると共に、博物館の今後の研究の方向性を探るため、第3回研究発表会を開催した。

「研究法をさぐる」「地域をさぐる」「東アジアの中の琵琶湖をさぐる」と題して5題の研究発表をおこなった。また、総合討論として「博物館に求められる研究とは」と題して岡田玲子（水と分化研究会）、黒田末壽（滋賀県立大学）、篠原徹（国立歴史民俗博物館）、杉江進（大津市歴史博物館）を招いて博物館の総括学芸員と討論をおこなった。参加者は88名であった。

研究発表

研究法をさぐる

- ①「博物館と学校連携の教育システムの開発（びわ湖ミュージアムスクール）」

琵琶湖博物館主査 江島 穰

- ②「身近な環境の自分化－住民参加の理論と実践を求めて－」

琵琶湖博物館総括学芸員 嘉田由紀子

地域をさぐる

- ③「フィールドレポーターによる身近な環境調査－案山子と田んぼの生き物たち－」

琵琶湖博物館フィールドレポーター 前田雅子

- ④「丸子船はどうしてなくなったか」

琵琶湖博物館学芸技師 牧野久美

東アジアの中の琵琶湖をさぐる

- ⑤「東アジアの中の琵琶湖、その時をこえて貫くもの－総合研究中間報告－」

総括討論

「博物館に求められる研究とは」

水と文化研究会	岡田 玲
滋賀県立大学	黒田末壽
国立歴史民俗博物館	篠原 徹
大津歴史博物館	杉江 進
琵琶湖博物館	布谷知夫
琵琶湖博物館	嘉田由紀子
琵琶湖博物館	中島経夫

(7) 特別研究セミナー

- 第30回 (2000年4月26日 (水)) ローリー・ウィルソン (Rory Wilson) 氏 (ドイツ・キール海洋研究所)「行動生態学における新たなショウジョウバエ? : 実験室外でのペンギンに関する理論の適用 (The new *Drosophila* for behavioural ecologists? : Taking theory out of the laboratory with penguins)」
- 第31回 (2000年6月23日 (金)) 川那部浩哉館長 (滋賀県立琵琶湖博物館)「生物多様性科学国際計画 (DIVERSITAS 「ディヴェルシタス」)の歴史と現状 (Origin and present status of "An International Programme of Biodiversity Science (DIVERSITAS)")」

(8) 研究セミナー

第1回 (2000年4月21日)

高橋 鉄美 「アフリカのタンガニカ湖産カワスズメ科魚類の系統」

第2回 (2000年5月19日)

芦谷美奈子 「展示プログラム『漁師修行の旅』から考える常設展示活用の効果と弊害」

芳賀 裕樹 「琵琶湖内湾の溶存有機物について」

戸田 孝 「赤野井湾の常設赤外線観測開始に手間取った理由」

第3回 (2000年6月16日)

矢野 晋吾 「村落における労働の社会的性格」

高橋 啓一 「日本にマンモスゾウはいたのか」

楠岡 泰 「屋外展示・生態観察池におけるプランクトンの遷移」

第4回 (2000年7月21日)

中島 経夫 「コイ科魚類の咽頭歯の研究—博物館での研究をどのようにうまく進めるか—」

草加 伸吾 「集中豪雨時の溪流流出水の組成解析」

前畑 政善 「洞庭湖産ナマズ *Silurus asotus* の産卵行動」

第5回 (2000年8月18日)

八尋 克郎 「琵琶湖の島の昆虫相」

榊永 一宏 「外部形態解析と分子系統解析から推測した海洋性アシナガバエの系統関係」

用田 政晴 「弥生時代年代論の学史」

第6回 (2000年9月15日)

牧野 厚史 「農村域における環境創造運動の現状」

里口 保文 「房総半島に分布する三浦層群の火山灰層」

布谷 知夫 「博物館資料論の課題」

第7回 (2000年10月20日)

宮本 真二 「守山市、播磨田城遺跡における先史時代以降の地形環境の変遷」

牧野 久美 「琵琶湖の伝統的木造船—漁船と田船—」

亀田佳代子 「安定同位体比分析等を用いたカワウの食性の検討」

第8回 (2000年11月17日)

橋本 道範 「中世琵琶湖における淡水資源と地域社会の再編—蒲生下郡奥嶋周辺を事例として—」

松田 征也 「稀少淡水棲貝類2種と外国産淡水棲貝類2種の滋賀県内における分布について」

大塚 泰介 「河川付着珪藻群落に関する三題噺—流程分布・季節変動・生息場所による違い—」

第9回 (2000年1月21日)

M.J. Grygier 「琵琶湖産魚類の寄生虫・宿主関係に関する新発見」

中川 元男 「琵琶湖辺の移り変わり」

中井 克樹 「国際生物多様性観測年(2001)に関連して—コア=サイトとしての琵琶湖での調査—」

第10回 (2001年1月19日)

横山 泰史 「博物館と小学校の連携について」

中川 修 「(中)学校と博物館の連携について」

第11回 (2001年2月16日)

山川千代美 「古琵琶湖層群産の植物化石—その2・化石林について」

桑村 邦彦 「堅田内湖における魚類の生態に関する研究—滋賀県で一番『きたない?内湖』の魚たち—」

A. Rossiter "The biology of the net-spinning caddisfly *Neureclipsis bimaculata*" (with some suggestions on how research at the LBM might be improved)

第12回 (2001年3月16日)

森田 光治 「地域の特性を生かした高校生物教材の開発—ミミズの教材化についての考察 その1」

中藤 容子 「淡水魚食文化に対する環境変化の影響と地域対応」

内藤又一郎 「消えたハンノキの里」

第13回 (2001年4月16日)

秋山 廣光 「ギギの発音行動の記録に関する実験」

桑原 雅之 「タナゴモドキの産卵行動」

高橋 鉄美 「アフリカの河川産カワスズメ科魚類 *Teleogramma gracile* の系統進化」

辻 彰洋 「藻類における琵琶湖固有種について」

(9) 研究員の受入れ

- ・辻 彰洋（文部省特別学術研究員：滋賀県琵琶湖研究所）
2000年4月1日～2000年12月31日「琵琶湖沿岸帯の生態と動態に関する総合研究」
- ・辻 彰洋（科学技術振興事業団・特別研究員）
2001年1月1日～2001年3月31日
「炭酸濃度とそのイオン存在形態に着目した琵琶湖藻類群集の遷移についての研究」
- ・高橋鉄美（科学技術振興事業団・特別研究員）
2000年4月1日～2001年3月31日「アフリカ産カワスズメ科魚類の系統分類学的研究」

(10) 国際交流活動

琵琶湖博物館では、琵琶湖の価値を国際的な比較の視点から明らかにするため、国際交流活動を推進している。また、博物館活動を国際化することで琵琶湖や滋賀県を広く世界へ発信していくことも目指している。平成12年度は、大韓民国、台湾、マラウイ湖、バイカル湖などにおける調査、中国、ヨーロッパ、メキシコなどで開催された国際学会での琵琶湖研究の成果発表、平成13年度に行われる5周年記念企画展および21世紀記念事業のための資料収集と調査、協力関係にあるパリ国立自然史博物館における国際シンポジウムでの琵琶湖博物館の活動紹介など、多彩な国際交流活動を行った。

1) 研究に関する国際交流（海外調査・国際学会発表など）

- ・川那部浩哉
2000年8月18日～8月25日 ロシア バイカル湖調査
2000年10月30日～11月13日 ポルトガル・スペイン・イタリア 博物館交流打合せ、国際生物学連絡総会水族館2000会議出席
2001年2月2日～2月9日 オーストラリア 国際陸水学会議出席
2001年3月8日～3月15日 アメリカ・カナダ 世界湖沼会議講演打合せ、生物多様性科学国際研究委員会国際生物観測年委員会、生物多様性条約政府間支援会議出席
- ・嘉田由紀子
2000年5月13日～5月20日 フランス、スイス BioEd2000（国際生物学連合主催生物教育シンポジウム）参加発表、「映像によるセーヌ川とレマン湖の百年」現地調査
2000年7月2日～7月8日 中華人民共和国（北京） アメリカ・カーネギー財団「環境政策と価値観」研究発表会議出席
2000年8月6日～10月18日 アフリカ（マラウイ湖） JICA研究「マラウイ湖生態総合研究」の調査（国際協力事業団支援専門家として）
2001年1月5日～1月14日 インド アメリカ・カーネギー財団「環境政策と価値観」研究発表会議出席
- ・中島経夫
2000年5月18日～5月22日 大韓民国（江原道 Samch'ok）魚類化石発掘調査

- ・高橋啓一
 - 2000年6月20日～7月19日 インドネシア 国立バンドン地質博物館における調査研究指導（国際協力事業団短期派遣専門家として）
 - 2001年1月9日～1月19日 台湾（台中市、台南市） 総合研究「東アジアの中の琵琶湖，その成立と人間生態系の比較研究」にかかる調査
- ・用田政晴
 - 2000年6月27～30日 大韓民国 博物館調査
 - 2000年9月28日～10月2日 台湾 アジア考古学研究機構調査研究
 - 2001年1月14～16日 大韓民国 考古学調査
- ・M.J. Grygier
 - 2001年1月24日 メキシコ（ラパス） 第4回国際大型腕足動物シンポジウム発表
 - 2000年10月3日 アメリカ（ワシントン） 無脊椎動物学セミナー（スミソニアン研究所 国立自然史博物館）
- ・牧野久実
 - 2000年6月27～30日 大韓民国（釜山） 湿地考古学関連基礎資料収集
- ・八尋克郎
 - 2000年9月5日 大韓民国（安東市） 安東大学校における琵琶湖博物館に関する発表
- ・山川千代美
 - 2000年7月30日～8月5日 中華人民共和国 第6回国際古植物学学会（IOPC-VI）での発表および標本調査
- ・宮本真二
 - 2000年6月26日 中華人民共和国（南京市） 第10回国際花粉学会発表
- ・芳賀裕樹
 - 2001年3月2日～3月16日 ロシア共和国（バイカル湖） 湖沼のプランクトン調査
- ・亀田佳代子
 - 2000年4月28日～5月20日 チェコ共和国、ドイツ 第3回国際陸水学会水鳥ワーキンググループ大会および生態学研究における安定同位体技術の応用に関する国際学会での発表
 - 2000年12月16日～12月23日 ドイツ 第5回ウ類国際学会発表
- ・榊永一宏
 - 2000年6月7日～6月21日 大韓民国 藤原ナチュラルヒストリー振興財団研究助成「東アジアにおける海洋性アシナガバエの種分化と分散」の調査
 - 2000年8月19日～9月2日 ブラジル 第21回国際昆虫学会発表
 - 2001年3月4日～3月13日 台湾 藤原ナチュラルヒストリー振興財団研究助成「東アジアにおける海洋性アシナガバエの種分化と分散」の調査

2) 事業部に関する国際交流

- ・2000年度5周年記念企画展のための調査および資料収集
 - 2000年4月29日～5月13日 湖南省(中国)(前畑政善)
 - 2000年5月13日～5月19日 慶尚南道(大韓民国)(前畑政善)
 - 2000年5月9日～5月21日 ライデン博物館(オランダ)(牧野厚史、川那部浩哉)
- ・写真今昔比較(電子博物館)のための調査および資料収集
 - 2000年5月13日～5月20日 パリ国立自然史博物館(フランス)、レマン湖博物館(スイス)(嘉田由紀子)
- ・BioEd2000(国際生物科学連合主催生物学教育国際シンポジウム)における琵琶湖博物館の活動紹介
 - 2000年5月15日～5月18日 パリ国立自然史博物館(フランス)(川那部浩哉、嘉田由紀子、牧野厚史、亀田佳代子)
- ・国際協力事業団・国際湖沼委員会トレーニングコースでの講義・実習
 - 2000年10月7日、2001年1月24日、2001年3月5日 琵琶湖博物館(楠岡泰)

2 交流・サービス活動

交流・サービス活動は、博物館の研究や資料収集などの成果を多くの利用者に伝え、博物館をうまく利用してもらうことで、博物館と利用者との双方向の情報交換と交流を行う場を作り上げていく活動である。具体的には、観察会や各種の講座、フィールドレポーターなどの参加型活動、あるいは学校教育との連携のための教育研修の受入などさまざまな活動を実施した。2000年度の新規事業として、「はしかけ」制度を開始した。

(1) 観察会・見学会等

2000年度は、博物館内や県内とその周辺で行う博物館観察会15件、博物館の舞台裏を見学する会3件の合計18件の行事を企画した。本年度も、雨天等による中止はなかったが、応募者が少なく、開催しなかった観察会が一件あった。各事業のタイトルや参加者数については別表参照。

博物館が実施した観察会に対する参加者の評判は概ねよかったが、テーマ・時期により応募者の人数に違いがでた。他方、応募者が集まりすぎて午前と午後の2回に分ける必要があるなど、担当者の負担の増加が心配な観察会もでてきている。

博物館観察会（含見学会）

タ イ ト ル	開 催 日	参加者数(日)
見て食べよう!!四季の漁業（春）「安曇川のウグイ漁」	4月2日	27
入門!ナマズ学!!「田んぼでナマズの産卵を観察しよう」	5月27日	24
身近な山を歩こう（初夏編）「里山の生き物を見てみよう」	5月28日	23
見て食べよう!!四季の漁業（初夏）「姉川のヤナ」	6月4日	53
琵琶湖の魚は何を食べているか?	7月20日	29
ミクロな生き物観察会	7月23日	29
回転実験室で水槽実験を!	8月8日	14
身近な山を歩こう（夏編）「ブナの森を調べよう」	8月13日	25
地学収蔵庫探検 地学研究の舞台裏	8月27日	11
博物館のまわりにいる昆虫を探そう	9月3日	39
見て食べよう!!四季の漁業（秋）「アユの産卵と人口河川」	9月15日	32
化石を探そう!「採集と観察」	10月1日	26
見て食べよう!!四季の漁業（冬）「瀬田川のシジミ搔き」	11月3日	22
民俗収蔵庫探検 漁具から考える湖の魚・漁・食	11月12日	3
ビワマスの産卵を観察してみよう	11月12日	27
身近な山を歩こう（秋編）「落ち葉の秋・探して歩こう」	11月26日	29
水族展示の舞台裏	3月4日	52
都会の巨樹をさがそう	3月11日	11



「回転実験室で水槽実験を！」の実験風景

(2) 博物館講座「とりあえずしてみよう編」「さあやってみよう編」

琵琶湖博物館講座「とりあえずしてみよう編」は入門編という位置づけで、学芸職員が専門テーマについて分かりやすく解説するもので、だれでも参加できるものである。「さあやってみよう編」は専門編であり、ある特定の分野について専門的知識や技術を身につけたい方のための講座であり、教員やアマチュアの研究者を対象としたものである。その詳細は下表に示した。

博物館講座「とりあえずしてみよう篇」

タ イ ト ル	開 催 日	登録者数 (人)
地学入門全 1回	5月14日	6
化石のピンからキリまで全 3回	8月5日, 12日, 19日	32
身近な魚から考える地球の歴史全 2回	8月26日, 27日	14
植物図鑑を使ってみよう全 3回	2月3日, 10日, 17日	13

博物館講座「さあやってみよう篇」

タ イ ト ル	開 催 日	登録者数 (人)
フナズシを作ってみよう (共催 滋賀の食事文化研究会) 全3回	4月16日, 7月9日, 12月17日	52
淡水魚7不思議・実践篇 観察から標本づくりまで 全4回	9月10日, 23日, 24日, 10月8日	7
寄生虫の不思議な世界 全2回	12月2日, 9日	7
鳥類の研究の仕方 全3回	1月13日, 20日, 27日	23
ナマズ学入門 全4回	2月4日, 18日, 3月4日, 18日	19



「フナズシを作ってみよう」で飯漬けを前に
ずらり並んだフナ

(3) 田んぼ体験教室

博物館の生活実験工房および隣接する水田を利用した、1年間（全10回）の田んぼ体験教室を開催した。農作業の体験ばかりでなく、周辺の自然観察、そして田んぼの多面的な機能、そして冬には農家の仕事や生活も体験できるよう試みた。

田んぼ体験教室開催日および内容（登録者10家族38名）

回	開催日	内容
1	5月7日	全体説明・田植え
2	6月18日	田の草取り
3	7月16日	虫の話
4	8月20日	かかし作り
5	9月17日	縄蒷い
6	10月1日	稲刈り
7	10月29日	脱穀
8	12月10日	餅つき
9	1月21日	わら細工
10	2月18日	試食とまとめ

(4) 里山体験教室

時代の流れとともに、手入れされなくなってきた「里山」の重要性を見直すため、里山の手入れや暮らしを、実際の活動を通じて体験する里山体験教室を開催した。

1年間、四季を通じて同じ里山で、計4回の手入れ作業とともに、山菜の試食や昆虫、キノコの観察など五感を十分に使って里山を体験しました。開催は、日野町大字上駒月の里山で行った。

里山体験教室の開催日と内容

登録者11家族31名

回	開催日	内容
里山体験（春編）	4月30日	「春の植物と山菜探し」
里山体験（夏編）	7月30日	「虫から見た里山」
里山体験（秋編）	11月5日	「木の実とキノコ」
里山体験（冬編）	12月3日	「柴刈り体験」



「里山体験教室」

竹の伐採風景

(5) 質問コーナー・フロアトーク

当館では、開館当初から、“学芸員の顔が見える博物館”づくりを目指している。その一環として情報センターの図書室の一角に「質問コーナー」を設置している。開館日には、学芸職員が日替わりでここに常駐し、一般の方々からの質問に回答している。回答可能な質問には担当学芸職員がその場で答え、専門的な内容を含む質問については、それぞれの専門学芸職員が回答することになっている。また、館長および副館長も、学芸員にまじって月一回程度、質問コーナーを担当している。受付けた質問の内訳は別表の通り（表番号）である。

なお、当コーナーでは、展示室の混雑が予想される土、日、祝日を除いて、学芸職員が来館者に展示解説を行う「フロアトーク」を1日1回実施している。「フロアトーク」を行うのは、当日の質問コーナーを担当する学芸職員である。

当コーナーでは、図書室入り口の壁に質問コーナー担当学芸職員の予定を掲示している。来館者に担当学芸員の専門分野と氏名を示すことにより、できるかぎり専門分野の担当者がある日に質問に来てもらえるよう配慮したものである。この担当学芸職員の予定表は、ホームページにも掲載しており、インターネットで閲覧できるようになっている。

期 間	2000年4月1日～2001年3月30日				
総質問数	936件				
質問内容	一般的な質問（総合案内で回答できるようなもの）			417件	
	専門的な質問			519件	
対 応	担当学芸職員が対応			592件	
	専門学芸職員（または外部）に依頼			344件	
専門的な質問の内容の内訳					
生 物	動 物	魚 類	164件	プランクトン	6件
		その他の水生動物	52件	動物一般	17件
	植 物	陸上植物			23件
		水生植物			7件
地 学	48件		図 書	26件	
物 理	3件		琵琶湖	43件	
歴 民	25件		環 境	15件	
博 物 館	33件		その他の質問	52件	

(6) 教職員等研修会

2000年度に行われた教員等研修は、合計48件（参加者：1,554人）であった。こうした研修会では、当館職員が基本理念や展示概要の説明のみならず、学校等がどのように博物館を活用し、総合的な学習に生かせるかについても解説を行った。また、実習室等を使って展示に関わる体験実習も行った。

月 日	研 修 会 の 内 容	参加者数(人)
5月9日	「エコ草津体験隊会議」	14
5月11日	「滋賀県中学校教育研究会理科支部長会議」	25
5月16日	「滋賀県高等学校理科教育研究会総会」	60
5月18日	「中国湖南省教育交流団施設見学」	14
5月18日	「滋賀県中学校教育研究会理科部会総会」	53
6月8日	「滋賀県総合教育センター理科教育講座」	8
6月16日	「近畿2府4県教育長協議会視察」	12
7月7日	「奈良県教育委員会県外研修」	12
7月25日	「滋賀県中学校教育研究会理科部会教員研修会」	11
7月26日	「草津市教育委員会初任者研修」	16
7月27日	「近江八幡市教育委員会」	154
7月28日	「高知県立歴史民俗資料館視察」	1
8月1日	「北河内郡小学校理科部会研修」	23
8月3日	「滋賀県中学校教育研究会理科部会自然調査ゼミナール」	40
8月8日	「東浅井郡小中教育研究会理科部会夏期研修」	5
8月10日	「中国湖南省中学生交流団施設見学」	18
8月10日	「守山市小中教育研究会理科部会夏期研修」	12
8月22日	「神奈川県川崎市立小学校社会科教育研究会常任委員臨地研修」	60
8月24日	「近畿ブロック北方領土返還連絡協議会施設見学」	82
9月14日	「滋賀県教育委員会事務局総務課視察見学」	90
9月28日	「総合教育センター教職経験者研修Ⅰ」	47
9月29日	「総合教育センター教職経験者研修Ⅰ」	49
10月5日	「富山市立博物館視察」	11
10月6日	「総合教育センター教職経験者研修Ⅰ」	53
10月7日	「中国湖南省衡陽市教員生徒派遣団施設見学」	38
10月13日	「総合教育センター教職経験者研修Ⅰ」	57
10月24日	「愛媛県議会環境保健福祉委員会視察」	10
10月25日	「岐阜県揖斐郡谷汲村教育会研修」	10
10月19日	「岐阜県教職員他県研修」	4
11月2日	「石川県教育委員会生涯学習課視察」	3
11月16日	「米国ミシガン州アナーバー市中学生使節団施設見学」	18
11月28日	「滋賀県環境学習フェア交流会」	450

11月29日	「湖南省教育代表団施設見学」	10
11月30日	「石川環境ビジネス研究会視察研修会」	24
12月1日	「北九州市教育委員会視察」	5
12月5日	「滋賀県教育委員会事務局生涯学習課視察」	2
12月23日	「滋賀大学教育学部施設見学」	25
1月19日	「栃木県立博物館視察」	2
1月23日	「泊村教育委員会施設見学」	2
2月2日	「大淀川学習館研修」	1
2月8日	「静岡県総合教育センター視察」	1
2月16日	「富山県総合教育センター視察」	1
2月27日	「文部省財務局視察」	8
3月6日	「東京都立松が谷高校教員研修」	1
3月8日	「福島県教育委員会視察」	4
3月14日	「埼玉県立歴史資料館視察」	3
3月15日	「熊本県環境センター視察」	3
3月19日	「ハンズ・オン・プランニング視察」	2
	合 計	48 件
		1,554

(7) 博物館体験学習

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った社会見学への対応のほか、フローティングスクールやエコ草津や体験学習の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

校 種	主 な 活 動 内 容
小 学 校	ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、プランクトン採集と観察、昔の暮らし体験、わら細工、餅つき、魚の採集（投網）と解剖、水草のパウチ、魚のプラ板、大地のつくり、昔の水利用学習、魚のうろこ観察、水生昆虫観察、野外植物観察、漁具、スッポン、貝の観察、水草の観察、水鳥の観察、ナマズの観察
中 学 校	水質検査、プランクトンの観察と採集、化石のレプリカ、魚の採集（投網・釣り）と解剖、ヨシ笛、わら細工、水鳥の観察、投網、草木染め、昔の料理体験
高等学校	土壌の吸着実験、水質調査、プランクトンの採集と観察、魚の採集と解剖、珪藻化石の観察、透明度測定、土を用いた実験、展示利用学習

校 種	活動学校数（校）	活動人数（人）
小 学 校	134	9,792
中 学 校	34	4,202
高 等 学 校	20	2,355
合 計	188	16,349

(8) 琵琶湖博物館「子ども一日学芸員」事業

この事業の目的は、琵琶湖や博物館に興味を持ってもらい、共に将来について考えていくということで、日本の将来を担う子どもたち（小・中学生）を対象に、子ども一日学芸員として、夏休み期間中、琵琶湖や博物館に対する感想や将来に向けての意見や提案をもらい、琵琶湖への関心を深めていただくとともに、中長期計画の検討に子どもたちの意見を反映させるものである。

○事業内容

1. 子ども学芸員体験（257人参加）

夏休み期間中、小・中学生を子ども学芸員として、体験活動やアンケート調査を行い、提案等を得て実現性等を検討し、中長期計画に生かした。

日時 8月3日（木）～8日（火）

実施内容

- 1) 子ども学芸員活動（水族バックヤード探検・研究室探検・収蔵庫探検・展示室探検）
- 2) 子どもモニター活動

2. 博物館で絵を描く日（44人参加）

日時： 8月9日（水）

実施内容

- 1) 子ども学芸員活動（水族バックヤード探検・研究室探検・収蔵庫探検・展示室探検）
- 2) 子どもモニター活動
- 3) 写生

3. 琵琶湖博物館子ども作品展（1,403点応募）

展示期間：9月26日（火）～10月15日（日）

募集作品：琵琶湖、琵琶湖博物館に関する絵画・ポスター

対象者：小・中学生（学年・国籍・県別は問わない）

実施内容：募集した琵琶湖に関する絵画・ポスターを予備審査後、アトリウムに展示した。審査は、委員会（美術専門家、職員）で予備審査を行い、その後来館者投票で各賞を決定（最優秀賞・優秀賞・佳作）した。また、館長特別賞、副館長特別賞も別に決定した。表彰式は、12月9日（土）に行った。

4. 琵琶湖博物館子ども会議（43人参加）

日時：12月9日（土）10：00～16：00

場所：琵琶湖博物館セミナー室

参加者：子ども学芸員体験の中から、優秀な提案のあった子ども30人

（作品展の表彰者も希望があれば含む）

実施内容：

- 1) 学芸員との交流 学芸員6人が、自分の研究について説明をしながら交流を行った。
- 2) 餅つき体験
- 3) グループごとの会議
- 4) 本会議（グループ発表・自由討論）



「子ども学芸員体験」で液浸収蔵庫に入って魚の標本を見学をしているようす

(9) 「体験学習の日」の活動

学校週5日制に対応する事業として、毎月第2・4の土曜日に当館を訪れる小・中学生を対象に、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高める活動を行った。

午後13：30～15：00まで、大変好評で、年間609名の参加者であった。

月 日	体 験 学 習 の 内 容	参加人数(人)
4月8日 4月22日	「春を感じてみよう」	38 17
5月13日 5月27日	「びわ湖のプランクトンを見よう」	38 21
7月8日 7月22日	「標本を作ろう」	20 60
10月14日 10月28日	「ヨシ紙を作ろう」	29 23
11月11日 11月25日	「木の実で遊ぼう」	46 38
12月9日 12月23日	「鏡餅を作ろう」 「しめ縄を作ろう」	63 25
1月13日 1月27日	「化石に親しもう」	41 43
2月10日 2月24日	「わら細工で楽しもう」	20 36
3月10日 3月24日	「ヨシ笛を作ろう」	26 25
	合 計	609



「春を感じてみよう」で博物館周辺の草花の観察風景

(10) 家族を対象とした環境学習プログラム エコスクラム「水の旅」の活動

県民の環境保全意識の高揚を図り、家庭における実践活動へとつなげていくため、家庭の日に関連させて、体験型学習プログラムを実施し、家庭そろっての環境について考える活動を行った。

月 日	体 験 学 習 の 内 容	参加人数(人)
6月18日	「魚の採集と解剖」	17
8月20日	「プランクトンの観察」	25
10月15日	「琵琶湖のヨシ・水草を考える」	11
12月17日	「琵琶湖と人々の暮らし」	23
	合 計	76

(11) 水族展示交流活動

水族展示では、水族飼育員が直接来館者に展示生物の説明を行う水族展示交流を、トンネル水槽、上流の小水槽、水辺の鳥たちおよび古代魚水槽において行った。トンネル水槽においては、水族飼育員が水槽に潜水し、展示交流員と水中マイクを使って会話をしながら解説や実験を行った。上流の小水槽では、展示しているナガレヒキガエルを使って給餌の実演を行った。水辺の鳥たちの水槽では、カイツブリに給餌を行って潜水の仕方や体のつくりなどを解説した。古代魚水槽では、チョウザメやガーパイク、ヘラチョウザメにそれぞれえさを与え、餌の違いやそれに伴う食べ方の違いなどの解説を行った。2000年度は、トンネル水槽において17回、上流の小水槽で17回、水辺の鳥たちの水槽で11回、古代魚水槽で22回実施した。

(12) フィールドレポーター

フィールドレポーターとは、県内を中心に身近な自然や生き物あるいは地域の情報などを定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中で生かしていくとともに、情報を通して博物館とレポーター同士をつなぐ制度である。この制度は1997年度からスタートし、2000年度は105名の登録者があった。

活動としては、博物館とフィールドレポーターが相談してテーマを決めて年数回行うアンケート型調査と、身近な情報を自由な形で随時報告してもらう自由型調査を実施している。また、アンケート

型調査の結果を受けて交流会を開催したり、調査に先駆けての勉強会や合同調査会なども適宜開催している。

2000年度は、アンケート型調査としては下記に示したように、「田んぼの生き物調査2000」と「ドングリを調べよう」の2回実施した。これらの調査で得られた情報は、「フィールドレポーター便り」としてとりまとめられ、フィールドレポーター交流会で報告された。また、自由型調査で報告された内容は、「フィールドレポーター掲示板」としてまとめられ報告されている。2000年度は、8号の掲示板が発行された。これらの活動に関する作業等については、フィールドレポータースタッフと呼ばれる有志の方々によって行われた。

調査および活動実績

調 査 内 容	実 施 月	報告数
1) 田んぼの生き物調査2000	5～7	422
2) ドングリを調べよう	9～11	350
3) 自由型調査（フィールドレポーター掲示板）	通年	95
活 動 内 容		回 数
1) フィールドレポーター便りの発行	11・2	2
2) フィールドレポーター掲示板の発行	5・7・8・9・10・12・1・3	8
3) フィールドレポーター交流会	10・2	2
4) 田んぼの生き物見分け方講習会	5	1
5) 田んぼの生き物みんなで調査会	6	1

(13) 夏休み相談室

子供たちの自然や地域に対する好奇心と、自主的な探求心を養うために、研究テーマの見つけ方から集めた標本の同定まで、夏休みの自由研究の支援を目的として、8月19日（土）、20日（日）の両日夏休み相談室を開催した。

夏休み相談室分野別相談件数

	水 族	昆 虫	プランクトン	植 物	地 学	環 境	社会科学	歴 史	合 計
8月19日	5	2	3	2	3	1	0	0	16
8月20日	7	7	1	5	8	0	1	0	33

(14) 「はしかけ」制度

当館では、2000年8月より「はしかけ」制度を発足させた。「はしかけ」制度は、琵琶湖博物館の諸活動（研究・交流・資料整理保管など）に積極的に関わろうとする人のための登録制度である。登

録には「はしかけ登録講座」の受講が必要である。「はしかけ登録講座」の開始に伴い、これまで実施していた琵琶湖博物館入門セミナーを廃止した。また、入門セミナーの受講生に対しては登録講座の受講を免除する制度もある。

2000年度は、講座をのべ4回登録講座を開催した。2000年度の登録者は、89名あり、琵琶湖集水域の魚の分布調査や、毎月第二・第四土曜日の「体験学習の日」のサポートなどの活動を行った。

はしかけ登録講座の実施日および参加者数

	実 施 日	参加者数(人)
1	9月10日	29
2	9月13日	14
3	2月25日	17
4	3月24日	13
	合 計	73

(15) 博物館実習（期間：2000年8月2日（水）～8月9日（水））

国内11大学の学生25名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念および活動方針と、それにもとづく交流サービス、情報、資料整備、展示等の活動について講義・実習を行った。特に、交流の場としての博物館の活動を理解してもらうため、来館者との交流の担い手となる展示交流員体験や、利用者とともに常に成長・発展するための博物館評価として来館者反応調査の実習も行った。博物館活動の基本的考え方の理解を確認し、学生と学芸職員との意見交換を行うため、最終日にはディスカバリーボックスの企画とその成果発表会を開催した。実習の日程および内容、参加者内訳は、下に示したとおりである。

なお、7日間以上実習が必要な学生2名に対しては、実習期間を延長して10日間の実習を行った。

実習の日程および内容

月日（曜日）	実習内容（午前）	実習内容（午後）
8月2日（水）	・全体オリエンテーション ・博物館とはなにか？	・琵琶湖博物館の設置理念と概要 ・館内・屋外展示案内
8月3日（木）	・展示の概要説明 ・A・B展示室見学	・C展示室見学 ・ディスカバリールーム見学 ・ディスカバリーボックス企画ガイダンス
8月4日（金）	・接遇研修 ・展示交流員体験	・展示交流員体験
8月5日（土）	・休 日	

8月6日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者反応調査 ・収蔵庫見学 ・水族バックヤード見学 ・生物標本整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果のまとめおよび発表 ・薫蒸庫整理 ・地学標本整理 ・民俗資料整理
8月7日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫見学 ・動物標本整理 ・植物標本整理 ・交流活動概要説明 ・来館者質問の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・水族バックヤード見学 ・民俗資料整理 ・情報活動概要説明 ・図書資料整理
8月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動概要説明 ・体験学習の準備 ・来館者反応調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活動概要説明 ・図書資料整理 ・調査結果のまとめおよび発表
8月9日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカバリーボックス企画案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習成果発表会 ・修了式

参加者内訳

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	2	追手門学院大学	2
成安造形大学	5	大阪芸術大学	1
京都橘女子大学	6	金 沢 大 学	1
京都教育大学	3	信 州 大 学	1
京都府立大学	2	都 留 文 科 大 学	1
京都精華大学	1		
合 計			25

(16) ワークショップ、シンポジウムおよび講演会等の開催

「開館4周年記念行事『里山から湖と人間を考える』」

4周年を記念して、琵琶湖博物館が引き続き新たな出会いと交流の場になるようにミニコンサートと映画上映会、対談を企画した。

1) 琵琶湖ホール音楽アンサンブルコンサート

日時：2000年10月21日(土)

第1回 13:30~14:00、 第2回 15:00~15:30

会場：琵琶湖博物館アトリウム

指揮 清水史広、ピアノ 平川寿乃

2) 関西フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによるミニコンサート

日時：2000年10月22日(日)

13:00~14:00

会場：琵琶湖博物館アトリウム

沼田陽一（フルート）、徳岡裕紀（第1バイオリン）、澤田久美（第2バイオリン）
ステファン・ポポフ（ピオラ）、分藤美紀子（チェロ）

3) 記録映画「今森光彦の里山物語」上映会

日時：2000年10月28日（土）、29（日）

会場：琵琶湖博物館ホール

第1回 10：30～、第2回 15：00～

内容：滋賀県の湖西地方の里山の四季とそこに暮らす生き物を克明に記録したハイビジョン映像。

4) 里山対談「里山から湖と人間を考える」

日時：2000年10月28日（土）

13：30～15：00

会場：琵琶湖博物館ホール

対談者：今森 光彦（写真家）

土岐小百合（「里山から考える21世紀」実行委員会代表）

川那部浩哉（琵琶湖博物館館長）

内容：今なぜ里山が目されているのかを、里山の写真家である今森氏と「里山物語」をプロデュースした土岐氏と川那部館長が語りあった。



琵琶湖ホール音楽アンサンブルコンサート



関西フィルハーモニーメンバーのミニコンサート



里山対談「里山から湖と人間を考える」

3 情報活動

最新のハードウェアとソフトウェアを活用し、“博情報館”として機能できる基本情報システムの構築を目指している。そのため来館者向け閲覧用図書の整備や映像情報のデジタル化ならびに研究支援を図りながら、地図情報や文字情報と合わせて検索や利用を可能にするとともに、通信網を通じて博物館利用者や類似施設とのネットワーク化を図ることに努めた。

(1) 館内の情報センター（図書情報利用室）

館内の図書室と情報利用室を来館者が自由に利用できるように整備している。来館者の立場からすれば、文献資料・電子資料とも疑問解決のための「調べごと」の手段という意味では同じであるという考えに基づき、両室を隣接させて互いに往来できるように設置し、かつ利用案内カウンターを共通にすることによって、一体化して運営している。

1) 図書室

単行本、約5,500冊および雑誌、約50タイトルを開架式で提供し、要望に応じて閉架式資料も提供した。

2) 情報利用室

情報端末を利用者自身が操作することにより、常設展示室のマルチメディア資料のほか情報利用室専用の長時間番組や博物館資料の検索プログラムが利用できるようにしている。

(2) 通信網を利用した館外サービス

1) ファックス情報提供サービス

各家庭のファックスから電話回線で接続して操作することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を受信することができる。2000年度利用状況は以下の通りである。

ファックス情報提供サービスへのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総アクセス数	57	38	47	71	102	30	32	32	12	17	27	21
目次アクセス数	25	24	19	33	55	11	14	13	3	6	11	9

総アクセス数：サーバーから情報が取り出された件数

目次アクセス数：「総アクセス数」のうち、目次ページへのアクセス件数（通常、目次ページで目的とする情報の所在を確認した後、改めてサーバーに接続してその情報を取り出す。）

2) 電子交流ネットワークシステム（LBMNET）

博物館が一方的に情報を提供するというものでなく、博物館職員と一般県民を含む多様な立場の参加者が、博物館のテーマに沿った内容について自由に情報発信を行う場を実現するため、電子交流システムの運営を進めている。

既に、1998年10月13日より、パソコン通信の技術を利用した電子掲示板システムを一般公開すると

いう形での運営を開始しているが、1999年11月29日より、インターネットからこの電子掲示板にアクセスできるシステムの運用を開始した。

3) インターネット・ページ（ホームページ）

インターネットを経由して博物館に接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を受信したり、博物館資料の検索を行ったりすることができる。また、インターネット・メールで専門的な内容についての質問を受け付けており、このメールの宛先もホームページで案内している。2000年度の利用状況は以下の通りであった。

インターネットページ（静的サーバ）へのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総ヒット数	183,470	269,126	257,567	273,411	361,601	28,5187	308,358	267,404	205,597	272,243	261,774	272,802
連続アクセス	8,811	11,530	11,235	11,933	13,823	12,889	13,639	13,520	11,562	13,163	13,216	12,892
表紙アクセス	978	1,162	1,231	1,246	1,660	1,272	1,286	1,009	799	1,032	1,061	1,101

総ヒット数：サーバに対する全ての種類のデータ要求の総数（但し、博物館内部からの要求は除外）。各ページの定義ファイル、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる。

連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものを1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）。

表紙アクセス：「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ（表紙ページ）を経由したアクセス件数。

* 「エリアキャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再使用している場合は、合わせて1件しか計数されない。

インターネットページ（動的サーバ）へのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
セッション数									239	208	166	210
絞込検索回数									355	370	242	290
データ閲覧件数									968	1,032	631	1,178

セッション：サーバ側が絞込検索を実現するために認識している「同一ユーザによる連続した」アクセスの集合

* 博物館内部からのアクセスは計数していない。

* 動的サーバのアクセス件数は2000年12月5日から計数している。

[インターネットページで案内している宛先へのメール受付状況]

全部で364通のメールがあり、情報センター担当者またはメール内容に応じた学芸職員が回答した。メールの内容は以下のようなものであった。

内 容	件 数
専門的内容についての問い合わせ	163
リンク許可依頼など	50
施設利用・行事についての問い合わせ	30
館に関する情報提供あるいは連絡など	22
撮影・掲載などの許可依頼・登録依頼	20
画像使用の許可依頼など	15
印刷物・出版物についての依頼・問い合わせ	12
個人あてのメッセージ	10
博物館への就職についての問い合わせ	10
視察および特別な見学についての問い合わせ	9
展示内容についての意見・感想	9
ホームページ内容についての意見・感想など	8
施設の運営状況（入館者数など）についての問い合わせ	6
合 計	364

(3) 資料整備

以上のような活動の前提となる資料収集のうち、情報活動との関連が特に密接な図書文献資料および映像資料について、以下のとおり整備した。

1) 図書文献資料

(ア) 図書

(単位：冊)

区 分	1999年度までの合計	2000年度実績	合 計
購 入 図 書	17,052	942	17,994
寄 贈 図 書	57,324	2,925	60,249
データ入力済図書	25,651	7,888	33,539
データ入力済文献	24,386	937	25,323

(イ) 所蔵雑誌

(単位：件)

区 分	タイトル数	合 計
和 雑 誌	1,063	1,415
洋 雑 誌	302	
中 国 雑 誌	50	

2) 映像資料

(単位：点)

区 分	1999年度までの合計	2000年度	合 計
動 画 資 料	437	10	447
静 止 画 資 料	65,621	1,341	66,962
(合 計)	66,068	1,351	67,409
C D 入 力 点 数	64,654	2,600	67,254

3) 映像資料の貸出し

2000年4月1日～2001年3月31日までの利用状況は、88件で内訳は以下の通りである。

承認日付	貸 出 先	用 途	フィルム内容	フィルム点数
4月11日	ジャストリレーションズ	雑誌掲載	展示ガイド	6
4月11日	滋賀県企画県民部消防防災課	報告書	災害写真	1
4月13日	株式会社ライブアド	常設展示	前野コレクション	1
4月13日	滋賀県レイカディア振興財団	雑誌掲載	前野コレクション	1
4月13日	千葉県立大利根博物館	展覧会パネル・図録	魚類写真	2
4月28日	滋賀県水産試験場	スライド上映用	魚類写真	40
4月26日	碧南海浜水族館	展覧会パネル・図録	魚類写真	23
4月29日	大津市役所産業振興部土地改良課	雑誌掲載	水生生物	4
5月29日	滋賀県広報課	雑誌掲載	魚類写真	1
5月29日	株式会社学習研究社	図鑑掲載	生活写真	3
5月30日	鹿児島テレビ	放送	魚類写真	1
6月2日	岐阜市立青山中学校	旅行冊子	魚類写真	8
6月5日	滋賀県立近代美術館	展覧会パネル・図録	水生生物	7
6月13日	株式会社週間釣りサンデー	雑誌掲載	魚類写真	4
6月13日	財団法人滋賀総合研究所	雑誌掲載	前野コレクション	1
6月19日	滋賀県水産課	雑誌掲載	魚類写真	2
6月24日	千歳サケのふるさと館	展覧会パネル・図録	魚類写真	21
7月10日	宮崎県総合博物館	展覧会パネル・図録	魚類写真など	12
7月10日	内田洋行	常設展示	魚類写真など	15
7月27日	野洲川沿岸地区国営総合農地防災事業推進協議会	下敷き	魚類写真	16
8月2日	滋賀県水産試験場	展覧会パネル・図録	魚類写真	11
8月8日	フジテレビ	放送	寄託資料(前野・藤村・田中)	3
8月4日	びわ湖放送	放送	前野コレクション	14

8月11日	滋賀県レイカディア振興財団	雑誌掲載	前野コレクション	1
8月19日	近江八幡青年会議所	雑誌掲載	前野コレクション	2
8月25日	産経新聞	新聞掲載	前野コレクション	7
9月1日	毎日放送	放送	前野コレクションほか	4 2
9月1日	志賀町立木戸小学校	雑誌掲載	前野コレクション	1
9月19日	(財)滋賀総合研究所	雑誌掲載	前野コレクション	1
9月29日	財団法人砂防フロンティア整備推進機構	計画書 (CDROM)	魚類写真	4
9月29日	(株)エム・シー・アンド・ピー	広報誌	魚類写真	1 0
10月4日	滋賀県農政水産部水産課	パンフレット	魚類写真	2 5
10月19日	編集工房 楽遊舎	信用金庫合同発行情報誌	魚類写真	1
10月17日	草津市立教育研究所	資料集	図版	1
10月24日	(株)エム・シー・アンド・ピー	広報誌	魚類写真	1
11月1日	滋賀県中央児童相談センター	テキスト	魚類写真など	1 1
10月29日	宇曽川流域みずすまし推進協議会	イベント資料	魚類写真	4
11月7日	有限会社ミエズオフィス	大辞典	風景写真	2
11月29日	滋賀自然環境研究会	書籍掲載	魚類写真など	4 9
10月31日	株式会社学生社	書籍掲載	前野コレクション	4
11月1日	毎日新聞大津支局	新聞掲載	魚類写真	2
11月7日	株式会社モンド	放送	魚類写真	1
11月7日	滋賀県レイカディア振興財団	広報誌	前野コレクション	1
11月16日	産経新聞大津支局	新聞掲載	魚類写真	5
11月20日	株式会社山田プランニング	広報誌	寄託資料(前野・藤村)	2
12月28日	守山市役所	資料集	寄託資料(藤村・琵琶湖工事事務所)	5
12月5日	日本テレビ「ニュースプラス1」	放送	動画素材	1
12月10日	(財)滋賀総合研究所	広報誌	前野コレクション	1
12月10日	(財)世界自然保護基金日本委員会	インターネット掲載	風景写真	7
12月16日	毎日新聞大津支局	新聞掲載	前野コレクション	1
12月19日	株式会社ジ アース	広報誌	寄託資料(前野・古谷・石井田)	7
12月21日	守山市立教育研究所	パンフレット	寄託資料 (藤村)	1
12月21日	(株)ピワローブ	インターネット掲載	魚類写真	1
1月10日	滋賀県農政水産部水産課	インターネット掲載		6
1月25日	産経新聞大津支局	新聞掲載	魚類写真など	5
1月25日	滋賀県レイカディア振興財団	広報誌	前野コレクション	1
1月25日	京都大学生態学研究センター	研究発表	魚類写真	4

1月25日	株式会社小樽水族館公社	展覧会パネル・図録	魚類写真	11
1月25日	株式会社汐文社	書籍掲載	魚類写真	1
1月28日	NHK社会情報番組部	放送	魚類写真	2
1月28日	滋賀県立大学人間文化学部	報告書	前野コレクション	1
2月8日	株式会社チャイルドコスモ	書籍掲載	魚類写真	24
2月9日	株式会社秀文堂	書籍掲載	魚類写真	4
2月8日	杉江町誌編纂室	報告書	前野コレクション	10
2月8日	滋賀県農政水産部水産課	パンフレット	漁具・漁労写真	2
2月15日	大分県海洋水産研究センター	広報誌	魚類写真	1
2月16日	毎日新聞大津支局	新聞掲載	魚類写真	1
2月24日	筑波大学第一學郡社会学	講演集	古谷コレクション	5
2月27日	(財)アド・シーズ	常設展示	魚類写真	2
3月3日	びわ湖を守る水環境保全県民運動	広報誌	水生生物	12
3月3日	国土交通省京浜工事事務所	広報誌	魚類写真	1
3月3日	滋賀県環境政策課	インターネット掲載	ポスター	1
3月3日	サンライズ出版	広報誌	図録	4
3月16日	国立科学博物館	インターネット掲載	魚類写真	11
3月9日	生駒市役所環境管理課	常設展示	魚類写真	23
3月9日	京都大学生態学研究センター	研究発表	魚類写真	4
3月16日	滋賀県教育委員会	書籍掲載	図録など	75
3月16日	京都大学生態学研究センター	研究発表	魚類写真	3
3月16日	湖国21世紀記念事業協会	上映	魚類写真・動画	2
3月16日	湖国21世紀記念事業協会	上映	前野コレクション	1
3月14日	個人	インターネット掲載	魚類写真	1
3月20日	(財)滋賀総合研究所	広報誌	前野コレクション	1
3月27日	財団法人淡海環境保全財団	ビデオ作成	プランクトン	1
3月31日	ネイチャーインターフェイス株式会社	雑誌掲載	魚類写真など	18
3月31日	株式会社アークス	インターネット掲載	湖調査写真	430
3月31日	上越市立水族博物館	展覧会パネル・図録	魚類写真	1
3月31日	平安神宮	インターネット掲載	魚類写真	11
3月31日	(株)京都民報社	新聞掲載	魚類写真	1

(4) 情報システムの構築

2000年度は、以下のような追加整備を行った。

《機器の更新》

開館以前に導入されたコンピュータの多くは既に老朽化が著しく、ハードディスクの損傷など故障が目立ち始めた。そこで、以下の2台のコンピュータを導入した。

- ・富士通 FMVME5/655
- ・Power Macintosh G4 400 M7891J/A

既存のプリンタ3台にネットワークカードを装備して再配備するとともに、以下の2台のネットワークプリンタを導入した。

- ・OKI Microline 900PSIII-LT
- ・HP LaserJet 4050N

その他、MOドライブなど周辺機器の整備を行った。

《ソフトウェアの導入》

研究活動の支援のために、統計解析ソフトウェア、文献整理、活用ソフトウェアを導入した。また、展示物、出版物の作成を支援するために、描図ソフトウェア、レイアウトソフトウェアなどを導入した。さらに、ソフトウェアの急速な盛衰に対応するため、ファイル変換ソフトウェアを導入した。

《ソフトウェアの追加開発》

琵琶湖博物館データベースシステムを運用していく中で明らかになってきた問題点を解決するために、「電子交流システムユーザ登録申込通知」「文字情報サーバ外部アクセス記録」「データベース永続URL対応」の3機能を追加開発した。

また、2001年の国際湖沼会議を機として、公開データベースを日本語圏以外の利用者にも活用してもらうため、「琵琶湖博物館データベース英文検索システム」を開発した。

4 資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象領域としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものであり、自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実につとめている。

収集は、博物館職員による採集、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって行われ、収蔵資料は必要ときに速やかに利用できるよう、各資料区分ごとの体系にしたがって整理し、長期間にわたり安全で良好な状態に保てるよう保管している。さらに収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

以下に2000年度の資料整備について項目ごとにまとめる（映像資料、図書資料は除く）。

(1) 収蔵資料

2000年度末現在の収蔵資料点数を分野ごとに示す。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とはさまざまな段階の未整理資料の概数である。

【地 学】

1) 地学標本

	登録資料(点)	収蔵概数(点)	2000年度整理・公開内容
化 石	15,340	20,000	登録1,660件
岩 石・ 鉱 物	2,943	4,000	登録792件
堆 積 物	21	1,500	登録3件
プレパラート	144	500	プレパラート作成整理登録136件
小 計	18,448	26,000	

【植 物】

1) 植物標本

	登録資料数(点)	収蔵概数(点)	2000年度整理・公開内容
さ く 葉 標 本	53,279	133,885	登録16,079点
水 槽 樹 脂 包 埋	0	57	
菌 類	0	80	
小 計	53,279	134,022	

【動物】

1) 動物標本（液浸標本を除く）

	登録資料数(点)	収蔵概数(点)	2000年度整理・公開内容
昆虫類	13,501	55,100	・標本作製4,010点 ・登録7,061点 ・資料目録「蜻蛉研究会トンボ類コレクション標本目録」刊行
貝類	0	9,500	
骨格標本	0	120	・現生脊椎動物標本登録マニュアル(案)の作成
剥製など	0	101	・鳥類本剥製製作10点
魚類樹脂包埋	0	10	
小計	13,501	64,831	

2) 液浸標本

	登録資料数(件)	収蔵概数(件)	2000年度整理・公開内容
魚類	28,164	53,000	・登録8,788点 ・ソーティング、ラベル添付、収納整理 ・アルコール・ホルマリン液点検
水生昆虫	0	26,000	・ソーティング、同定、ラベル添付、収納整理4,646点 ・参照標本作成74点 ・アルコール液点検補充26,000点
貝類	4,488	7,000	・登録888点 ・ソーティング、同定、ラベル添付、収納整理・アルコール液点検補充7,000本 ・企画展での展示約50点
甲殻類など	0	3,065	・新規収蔵565点（フィールドレポーター調査収集分285点など）
プランクトン	0	300	
植物	180	640	・新規収集整理登録33点
両生・爬虫類	0	150	
土壌等調査資料	0	500	
小計	32,832	90,655	

【歴史・民俗】

1) 考古資料

	登録資料数	収蔵概数(件)	2000年度整理・公開内容
県内遺跡出土品	0	1,319	
ガリラヤ湖関係出土品	0	3	

2) 民俗資料

	登録資料数(点)	収蔵概数(点)	2000年度整理内容
県内の生活生業用具	3,979	6,600	・資料写真撮影1200点・資料現状調査6600点・耐震対策・収集時民具カード整理・防錆等保存処理50点・ギャラリー展展示86点・展示用漁具DBの更新
県内の木造船模型	0	22	
外国の湖沼の船	0	4	

(旧データベースによる登録資料数)

3) 歴史資料

	登録資料数(件)	収蔵概数(件)	2000年度整理・公開内容
古文書・絵図・絵画等	0	140	・調書作成整理30点

【環 境】

1) 環境資料

	登録資料数(点)	収蔵概数(点)	2000年度整理・公開内容
体験学習用民具	0	544	
展示用生活用具	0	25	
水環境調査資料	0	72	
展示用製作物	0	48	

【水族資料】

	登録資料数(点)	収蔵概数(点)
水族資料(生体)		24,765

【収蔵資料まとめ】

	登録資料数	収蔵概数
地 学	18,448	26,000
植 物	53,279	134,022
動 物	46,333	155,486
(内訳) 乾 燥 標 本	13,501	64,831
液 浸 標 本	32,832	90,655
歴史・民俗	3,970	8,088
(内訳) 考 古 資 料	0	1,322
民 俗 資 料	3,970	6,626
歴 史 資 料	0	140
環 境	0	689
水 族		24,765
合 計	122,030	349,050

(2) 新規収集資料

2000年度には以下のとおり資料収集が行われた。

1) 寄贈

【民俗】 まつり道具 1点 堀出佳代子(守山市)

【動物】 滋賀県産を含む日本産および外国産蝶類標本 1409点 桐村信行(宇治市)

日本産蝶類標本 97点 細井正史(大津市)

アオカナブン福江島亜種副模式標本ほか甲虫標本 3点 江本健一(東京都)

日本産蝶類標本 1429点 河端京子(京都市)

水生昆虫トビケラ類模式標本 6点 西本浩之(小牧市)

【動物】 貝類標本 181点 近藤高貴(柏原市)

2) 提供

【民俗】 民具(ハコメガネ、ツケピン) 2点 北谷二三夫(草津市)

民具(タンス、醤油樽、フゴ、火鉢、水桶) 4点 堀江真成(草津市)

シュモク(ギギ釣り用具)一式 池内信(大津市)

3) 購入

【地学】 鉱物 3点

化石 7点

【動物】 動物標本 昆虫類(乾燥) 240点

非海産貝類(主に東アジア～東南アジア産) 約500点

【歴史】江戸期の近江の絵図 2件

4) 製作

【動物】鳥類本剥製 10点

5) 水族繁殖生物

2000年度主な繁殖生類

	学名	個体数(尾)
日本産魚類		
コイ科		
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	430
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	74
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	115
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocyparis rasborella</i>	155
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	200
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila pumila</i>	18
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumira</i> subsp.	502
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	140
タナゴ	<i>Acheilognathus melanoguster</i>	66
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira</i> subsp. R	21
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	546
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	377
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus sinensis atremius</i>	99
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis suigensis</i>	24
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus smithi</i>	138
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	285
ワタカ	<i>Ischikauia steenackeri</i>	124
メダカ科		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	227
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	44
ムサシトミヨ	<i>Pungitius pungitius</i> subsp.	51
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	291
外国産魚類		
コイ科		
チャイニーズワンラインペンシル	<i>Sarcocheilichthys parva</i>	74
パールダニオ	<i>Brachydanio albolineatus</i>	140
コウライハス	<i>Opsariichthys uncirostris bidens</i>	200
トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	104
カワヒラ		200

バルブス シネンシス	<i>Barbodes sinensis</i>	66
カワスズメ科		
ジュリドクロミス ディックフェルディ	<i>Julidochromis dickfeldi</i>	30
ネオランプロログス オケラータス	<i>Neolamprologus ocellatus</i>	54
昆虫類		
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	26

(3) 燻 蒸

資料に付着する害虫（成虫・卵・蛹）および黴等、資料の保存上、有害な生物の殺虫防除を目的に、収蔵庫燻蒸および燻蒸庫燻蒸を以下のとおり行った。また、1999年度には小型燻蒸庫を設置し利用規程も整備し、2000年度より本格的な運用を始めた。

・収蔵庫燻蒸

実施日 2000年9月4～6日

対 象 動物収蔵庫、民俗収蔵庫1・2、特別収蔵庫

・燻蒸庫燻蒸

実施日 2000年5月10～12日、7月9～11日、12月11～13日、2001年3月22～24日

対 象 植物さく葉標本、民俗資料、昆虫乾燥標本、骨格標本、鳥類剥製など

・小型燻蒸庫燻蒸

実施日 2000年10月17～19日、10月30・31日、2001年2月20～22日、3月12～14日、3月14～16日

対 象 植物さく葉標本、昆虫乾燥標本、貝類標本

(4) 資料の貸出

2000年度には、以下のとおり資料の貸出を行った。

貸 出 資 料	貸 出 先	期 間
【植 物】		
植物さく葉標本 10点	朝日町立福井総合植物園	2001.3.15, 2001.4.13
【動 物】		
トンボ標本 15点	片谷直治（奈良市）	2000.5.1, 2001.5.1
イケチョウガイ液浸標本、水草樹脂包埋標本など 9点	宮崎県総合博物館	2000.7.10, 8.31
ハウネンエビ標本 4点	マドラス大学（インド）	2000.12.20, 2001.5.20
ヒル標本 35件	北海道大学大学院理学研究科	2000.5.15, 11.15
【歴史・民俗】		
唐橋遺跡出土無紋銀銭 1点	長野県立歴史館	2000.7.3, 7.14
松原内湖遺跡ヘラ状木製品 2点	大阪府立弥生文化博物館	2000.9月上旬, 12月上旬
漁法写真パネル（エリ） 1点	大津市立日吉中学校	2000.10.17, 11.30
民具 10点	長浜城歴史博物館	2000.12.18, 2001.3.20
料理模型・魚レプリカ 66点	能登川町立博物館	2001.1.6, 2001.1.31
【水族資料】		
アカヒレタビラ標本 1点	兵庫県立人と自然の博物館	2000.10.13, 2001.1.25
メダカ、ドジョウ、タモロコなど 41点	宇曽川流域みずすまし推進協議会	2000.10.28, 10.29

(5) 特別観覧許可

以下のとおり特別観覧の許可を行った。

【水族資料】

- ・淡水魚類 10点 撮影 藤原裕（京都市）

【歴史・民俗】

- ・唐橋遺跡出土資料（押型土器）約50点 熟覧、撮影 遠部慎（別府市）
- ・粟津貝塚出土資料（イノシシ頭骨）1点 撮影 富岡直人（岡山市）
- ・民俗資料、諸職用具 30点 熟覧、撮影 甲南町教育委員会生涯学習課 長峰透

(6) 資料評価委員

博物館として重要な資料の購入や受贈にあたって、博物館資料としての学術的評価と価格評価を行うため、あらかじめ選定しておいた33名からなる資料評価者名簿をもとにしながら資料評価委員を選任し、資料評価を依頼している。

5 展示活動

2000年度には、下記の企画展示、ギャラリー展示を開催した。

(1) 企画展示

第8回企画展示 「湖の魚・漁・食（うみのぎょ・りょう・しょく）－淡海あれこれ商店街－」

会期：2000年7月15日（土）～11月23日（木・祝）（110日間）

料金：大人 900円、高校・大学 700円、小中学生 450円（常設展観覧を含む）

総観覧者数：58,955人

企画展示室内に「湖の魚をとって食べる」暮らしをしていたころの商店街を再現し、各店が琵琶湖とつながりのある商品を取り扱うことで、人間と琵琶湖とのつながりを過去と現在を対比しながら見ることにより明らかなものにしようとした。

[関連行事]

7月15日(土)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

7月16日(日)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

7月19日(水)「魚の行商－ボテフリさんがやってきた」講師：桑村邦彦（フロアトーク）

会場：アトリウム

7月20日(木)「エリと風の関係」講師：近畿大学 山根猛氏 会場：企画展示室内集会所

7月22日(土) 子供料理教室 講師：滋賀の食事文化研究会 会場：実習室

7月22日(土)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

7月23日(日)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

7月25日(火)「企画展の説明会」講師：前畑政善（フロアトーク）

7月25日(火)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

7月28日(金)「なぜそこにエリはあったのか」講師：橋本道範（フロアトーク）

会場：企画展集会所

7月29日(土) 子供料理教室 滋賀の食事文化研究会 会場：実習室

7月29日(土)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

7月30日(日)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

8月2日(水)「湖の魚・漁・食みどころツアー」講師：中藤容子（フロアトーク）

8月4日(金)「コイやフナにも歯があるんだ！！」講師：中島経夫（フロアトーク）

会場：企画展集会所

8月5日(土)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

8月6日(日)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

8月12日(土)「フロアトーク」講師：川那部浩哉

8月12日(土)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

8月13日(日)「ひがい屋・グリル琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会

- 8月19日(土)「ひがい屋・グリラ琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会
- 8月20日(日)「タツベつくりと琵琶湖の環境の変化について」講師：湖南漁協 杉浦信雄氏
- 8月20日(日)「ひがい屋・グリラ琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会
- 8月26日(土) 子供料理教室 滋賀の食事文化研究会会場：実習室
- 8月26日(土)「ひがい屋・グリラ琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会
- 8月27日(日)「真珠の核入れ」講師：中山清子氏 会場：企画展示室前
- 8月27日(日)「ひがい屋・グリラ琵琶湖での交流」講師：滋賀の食事文化研究会
- 9月10日(日)「真珠の核入れ」講師：中山清子氏 会場：企画展示室前
- 9月13日(水)「投網をうってみよう」講師：松田征也・桑村邦彦 (フロアートーク)
会場：アトリウム
- 9月16日(土)「湖の魚・漁・食ひとめぐり」講師：中藤容子
- 9月24日(日)「真珠の核入れ」講師：中山清子氏 会場：企画展示室前
- 10月4日(水)「魚之通道」講師：橋本道範 (フロアートーク) 会場：企画展集会所
- 10月6日(金)「食べられる生き物 食べられない生き物」講師：矢野晋吾 (フロアートーク)
- 10月9日(月)「フナタツベをつくる」講師：保智さん 会場：企画展集会所
- 10月11日(水)「魚の行商ーボテフリさんがやってきた」講師：桑村邦彦 (フロアートーク)
会場：アトリウム
- 10月15日(日)「真珠の核入れ」講師：中山清子氏 会場：企画展示室前
- 10月22日(日) 琵琶湖博物館研究発表会
- 10月25日(水)「投網をうってみよう」講師：松田征也 (フロアートーク) 会場：アトリウム
- 10月28日(土)「フナタツベをつくる」講師：保智さん 会場：企画展集会所
- 10月29日(日)「エビタツベを科学する」講師：近畿大学 山根猛氏
会場：企画展集会所
- 11月12日(日)「紙芝居・オオナマズの涙」講師：瀬川也寸子 会場：企画展示室前
- 11月12日(日)「真珠の核入れ」講師：中山清子氏 会場：企画展示室前
- 11月15日(水)「琵琶湖の漁具にさわってみよう」講師：桑村邦彦 (フロアートーク)
- 11月19日(日)「紙芝居・オオナマズの涙」講師：瀬川也寸子 会場：企画展示室前
- 11月23日(祝)「情報の売りつくしセール」
- ・「紙芝居・オオナマズの涙」講師：高橋綾子 会場：企画展示室前
 - ・「魚の行商ーボテフリさんがやってきた」講師：桑村邦彦 会場：企画展示室前
 - ・「企画展解説書の解説」講師：中藤容子 会場：企画展示室前
 - ・「投網をうってみよう」講師：松田征也 会場：企画展示室前
 - ・「フナタツベをつくる」講師：保智さん 会場：企画展集会所



企画展示入り口



企画展示内部

(写真撮影：株式会社丹青社)

(2) 水族企画展示

第8回「食卓にのぼる湖の魚—霞ヶ浦は今—」

会期：2000年7月15日（土）～9月3日（日）（44日間）

常設展示観覧券で入場

琵琶湖に次ぐ広さを誇る霞ヶ浦では、近年の水質変化やアオコの発生が、環境の悪化の象徴として報道され、その映像は私たちの記憶に新しい。しかし、霞ヶ浦は、琵琶湖に匹敵する内水面の漁業水域であり、古くからその漁獲物は周辺住民の食卓を賑わし、豊かな食文化を支えてきた。一方、琵琶湖には、古い歴史の中で進化した多くの固有種が生息し、それを利用する滋賀県特有の文化が創られてきた。しかし、近年の琵琶湖を取り巻く環境も、霞ヶ浦同様に変化し、それに伴い在来の魚介類の減少と共に滋賀県特有の食文化も衰退してきている。

本展は、内水面漁業の盛んな霞ヶ浦の魚や漁具漁法、食文化を紹介し、琵琶湖と比較することで、湖と人との関わりを考えるきっかけを作ることを目的とした。

第9回「琵琶湖と大陸をむすぶ魚たち」

会期：2000年10月21日（土）～2001年1月28日（日）(79日間)

常設展示観覧券で入場

現在、中国大陸で繁栄しているクルター亜科やクセノキプリス亜科の魚類は、日本では琵琶湖にすむワタカを残して約40万年前に絶滅したと考えられていた。ところが、縄文時代の遺跡からクセノキプリス亜科の咽頭歯が発見され、少なくとも約6000年前の琵琶湖にはこれらの魚類が生息し、縄文人たちに利用されていた可能性のあることが明らかとなった。このことは、琵琶湖周辺に住み着いた人間の活動が湖辺の環境に影響をおよぼし、これらの魚類が絶滅していった可能性を示唆している。

本展では、琵琶湖付近を中心に、日本列島形成の地史的变化に伴って、さらには人間活動によって変化してゆく魚類相について、人間の暮らしと併せて紹介した。

(3) ギャラリー展示

「滋賀県環境学習フェア・研究報告展示会」

主催：滋賀県教育委員会、滋賀県立琵琶湖博物館

会期：2000年11月28日～12月10日（12日間）

場所：企画展示室

県内の小・中・高等学校での環境学習の取り組みを展示し、児童生徒、教員および県民の環境問題に関する意識の高揚と交流の場とすると共に、これからの環境教育の在り方を考えるため、ポスターセッションを開催して各校の取り組み説明と交流を行った。

「農の匠作品展」

主催：滋賀県農林水産部、滋賀県立琵琶湖博物館

会期：2000年11月28日～12月10日（12日間）

場所：アトリウム

農の匠が技術を生かして作り上げたわら細工や竹細工などの手工芸品や高齢者活動紹介のパネル展示を行うと共に、農の匠による作品づくりの実演を行った。

「20世紀近江発掘ベスト10展パネル巡回展」

主催：滋賀県教育委員会、滋賀県立琵琶湖博物館

会期：2000年12月12日～2001年1月11日（21日間）

場所：アトリウム

県民の意向をもとに選定された滋賀県を代表する遺跡の調査成果、現状等を紹介したパネルの展示を行い、県民の文化財に関する理解を深めようとしたものである。パネル展に合わせて、館蔵品の実物資料の一部を紹介し、常設展示室での関連展示への導入も図った。

「第1回 琵琶湖博物館民俗資料展 フナをとる漁具」

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

会期：2001年1月26日～3月15日（42日間）

場所：企画展示室

常設展示観覧券で入場

総観覧者数：12,783人

本館では、1978年から1995年までに、滋賀県教育委員会が県内各地から収集した民具6,500点あまりを収蔵し、整理を進めている。その資料整理の成果を一般に公表し、関係者への還元も図ることを目的として、琵琶湖博物館民俗資料展を開催することにした。その第1回として「フナをとる漁具」を取り上げ、タツベ、オオギ、オシアミ、コイトアミなど実際に使われた漁具約100点を紹介した。

「エコロジカルあくしょん報告（壁新聞）展示会」

主催：こどもエコクラブ全国フェスティバル2001 in びわこ・くさつ実行委員会、滋賀県立琵琶湖博物館

会期：2001年3月18日～3月25日（6日間）

場所：企画展示室

こどもエコクラブ活動の成果として作製した壁新聞を展示し、あわせてこどもエコクラブ事業をパネル等によって紹介することで、環境保全活動の定着拡大を図った。

「湖沼の伝説—中野晴生の旅—」

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

会期：2001年3月27日～5月6日（37日間）

場所：企画展示室

写真家中野晴生が、日本の湖沼の伝説を求めて旅をし、撮影した写真を展示すると共に、各地に残る湖沼の伝説も紹介した。

(4) 水族トピック展示

水族展示室・ふれあい体験室前または水族企画展示室において、生まれたばかりの魚の稚仔魚や、話題性のある魚や貝など、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。内容と期間は以下のとおりであった。

展 示 期 間	テ ー マ (場 所)
2000年4月25日～5月7日	イサザ（ふれあい体験室）
5月9日～5月28日	モツゴの稚魚（ふれあい体験室）
5月30日～6月18日	ゼニタナゴの稚魚（ふれあい体験室）
6月20日～7月23日	メダカの卵と稚魚（ふれあい体験室）
7月25日～8月20日	イチモンジタナゴの稚魚（ふれあい体験室）
8月22日～9月10日	スッポンの子ガメ（ふれあい体験室）
9月12日～10月1日	ワタカの稚魚（ふれあい体験室）
10月3日～10月22日	産卵期を迎えたカネヒラ（ふれあい体験室）
10月24日～11月11日	産卵期を迎えたゼニタナゴと卵（ふれあい体験室）
2001年1月4日～1月28日	ビワマスの卵（ふれあい体験室）
3月24日～5月27日	レッドリストの魚たち—滋賀県で大切にすべき野生生物（2000年版）に掲載された淡水魚・淡水貝・陸貝—（水族企画展示室）

(5) 展示関連事業

・ディスカバ特派員による「お気に入り展示を伝えよう」

ディスカバリー・ルームに何度も来室している多数の子ども達を対象に、博物館全体を利用しながら、子ども達自身が自主的な活動が行えるプログラムの企画および実施を行った。活動内容としては、常設展示室を利用して、おすすめ展示やお気に入り展示を他の来館者へ紹介していくものである。

今回は、来館経験2回以上の小学校4年・5年・6年生を対象とし、取材許可証をもった「ディスカバ特派員」が、小型ポラロイドや記録カードなど取材専用キットを使用しながら、展示の取材を行った。どうして好きなのか、どこが面白いのかを考え、これぞ私のお気に入り展示・おすすめ展示だ！と写真撮影やスケッチをとり、取材した内容を記録した。さらに、ポスターサイズの展示室地図に取材ポイントシールをはり、人気展示マップを完成させた。

これらの取材結果は、「ディスカバ特派員による博物館情報」として、館内やディスカバリー・ルーム内に掲示し、他の子ども達をはじめ多くの来館者に日々紹介した。また、実施期間中、琵琶湖博物館のホームページでも速報として情報を公開し、「うみっこ特別号」で成果をまとめた。

実施は、2001年2月3日（土）～25日（日）の土日祝日とし、計9日間行った。この機関に計32人の参加者があった。



取材専用キット

特派員はこのキットを持っておすすめ展示の取材を行った。（カバン、カメラ、調査カード、取材許可証、腕章）

特派員による「お気に入り・おすすめ展示紹介」
パネル アトリウムにて展示



・ディスカバリー・ルーム「にんぎょうげきじょう」の特別公演

ディスカバリー・ルームは、来館者が自ら展示物を触ったり、動かしたりしながら展示を利用する18のハンズ・オン展示で構成されている。

今回、そのうちの1つである「にんぎょうげきじょう」コーナーを利用し、滋賀県人形劇連絡会に上演を呼びかけ、実演を行った。普段は劇場の横に並べてある人形を、来館者が自分で選んで演じるコーナーで、実際人形劇を演じている方に実演してもらい、見る側、演じる側ともに人形劇の楽しさを知る機会とし、交流の場を設定した。見る側・演じる側ともに、今後、多くの方に積極的に博物館に関われる機会を提供する。

今年度の実施は、人形劇場「かにこぞう」の大崎省子さんの出演で計2回行った。

2000年11月18日 14:30～15:00「走る！うりぼうくん」

2000年12月2日 14:30～15:00「うりぼうくん 冬へ」

両日ともに、幼児を中心とした家族連れの来館者30名近くが、「うりぼう」の繰り広げる物語に真剣に見入っていた。



「にんぎょうげきじょう」コーナーでの上演風景

6. 印刷物

2000年度出版物一覧

出 版 物 名 称	サイズ	ページ数	発行部数
研究調査報告書第16号 「生活再現の応用展示学的研究－博物館のエスノグラフィ－として」	A 4	326	2,000
研究調査報告書第17号 「博物館を評価する視点」	A 4	209	3,000
業績目録 4 号	A 4	42	1,300
研究発表会チラシ	A 4		2,000
研究発表会ポスター	A 2		500
研究発表会プログラム	A 4	約20	350
開館 5 周年記念連続講座チラシ	A 4		9,000
うみんど 15号	A 4	8	50,000
うみんど 16号	A 4	8	50,000
うみんど 17号	A 4	8	50,000
うみんど 18号	A 4	8	50,000
うみっこ 8号	A 4	4	70,000
うみっこ 9号	A 4	4	70,000
もよおしもの案内 (上半期) チラシ	A 4		60,000
もよおしもの案内 (上半期) ポスター	A 2		1,000
もよおしもの案内 (下半期) チラシ	A 4		60,000
もよおしもの案内 (下半期) ポスター	A 2		1,000
貸出標本の手引き	A 4	8	6,000
子ども一日学芸員募集チラシ	A 4		20,000
子ども一日学芸員募集ポスター	A 2		1,000
資料目録 4 号「昆虫標本 1」	A 4	77	1,200
資料目録 5 号「魚類標本 4」	A 4	171	1,000
リーフレット (日本語)	特		350,000
企画展「湖の魚・漁・食」展示解説書	A 4	64	2,000
琵琶湖の魚と漁具・漁法	A 4	62	2,000
企画展「湖の魚・漁・食」チラシ	A 4		10,000
企画展「湖の魚・漁・食」チラシ (追加)	A 4		15,000
企画展「湖の魚・漁・食」ポスター	A 2		1,500
水族企画展「食卓にのぼる湖の魚」	A 4	8	30,000

ギャラリー展示「フナをとる漁具」チラシ	A 4		10,000
ギャラリー展示「フナをとる漁具」ポスター	A 2		1,000
ギャラリー展示「フナをとる漁具」ポスター	B 2		20
ギャラリー展示「フナをとる漁具」リーフレット	A 4	4	7,000
ギャラリー展示「湖沼の伝説」チラシ	A 4		20,000
ギャラリー展示「湖沼の伝説」ポスター	B 2		1,000
漁師修行の旅報告書			500
年報（第4号）	A 4	約70	1,000
案内チラシ	A 4		40,000
琵琶湖博物館ポスター	B 1		200
琵琶湖博物館ポスター	B 2		800
開館4周年記念事業チラシ	A 4		20,000
開館4周年記念事業ポスター	A 2		1,000
琵琶湖&川の魚ポスター	A 1		500
休館日ポスター	A 1		1,000

Ⅱ 利 用 状 況

1. 2000年度入館者数

期 間：2000（平成12）年4月1日～2001（平成13）年3月31日

合 計 503,080人 開館日数： 303日

1日平均：1,660人

月 平 均：41,923人

入館者の区分別内訳

単位：人

区 分	個 人(人)	団 体(人)	合 計(人)	構 成 比(%)
未 就 学 児	43,453	4,648	48,101	9.6
小・中学生	39,473	77,374	116,847	23.2
高・大学生	7,380	16,157	23,537	4.7
一 般	200,892	113,703	314,595	62.5
合 計	291,198	211,882	503,080	100.0

(1) 総入館者数

年 月	開 館 日 数 (日)	有 料 入 館 (人)				無 料 入 館 (人)								総 計 (人)	1日当 り平均	
		一般	高大学生	小中学生	有料計	65歳以上	身障者	家庭の日	体験学習	こどもの日	学校行事	その他	無料計			
12	4	26	21,103	3,050	7,008	31,161	418	301	255	41		969	2,398	4,372	35,533	1,367
	5	27	31,332	5,102	14,126	50,560	677	620	256	91	440	1,729	5,212	8,963	59,523	2,205
	6	26	23,584	873	9,836	34,293	761	420	278	33		4,894	4,137	10,522	44,815	1,724
	7	25	32,156	1,155	6,356	39,667	706	465	215	29		1,377	5,504	8,322	47,989	1,920
	8	28	46,310	2,661	15,312	64,283	876	624	319	39		326	7,258	9,419	73,702	2,632
	9	23	25,284	1,409	3,467	30,160	498	314	439	72		1,686	5,102	8,215	38,375	1,668
	10	26	31,286	1,921	19,704	52,911	970	472	170	47		7,626	5,234	14,506	67,417	2,593
	11	25	27,746	1,568	7,644	36,958	509	572	203	14		3,971	4,123	9,399	46,357	1,854
	12	23	9,401	737	1,422	11,560	191	140	181	19		410	2,198	3,141	14,701	639
13	1	24	10,204	629	1,953	12,786	188	129	167	21		899	2,770	4,198	16,984	708
	2	24	14,740	386	3,712	18,838	228	250	405	36		1,272	3,936	6,123	24,961	1,040
	3	26	18,663	895	5,282	24,840	428	314	289	39		637	6,202	7,883	32,723	1,259
計		303	347,633	20,386	95,822	408,017	6,459	4,621	3,177	481	440	25,796	54,074	95,063	503,080	1,660



入館者 300万人達成 (11月3日)

(2) 学校等入館者数

年 月		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校		そ の 他 の 学 校	
		学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数
12・4	全 体	35	2859	9	1183	15	2097	0	0
	県 内	7	343	2	154	5	473	0	0
12・5	全 体	101	6630	42	4097	22	4424	4	126
	県 内	30	990	4	35	4	563	2	97
12・6	全 体	63	4779	54	7829	9	880	7	149
	県 内	42	2888	14	1343	5	739	5	84
12・7	全 体	14	857	13	1558	8	563	2	22
	県 内	7	440	5	497	5	312	2	22
12・8	全 体	9	401	7	210	4	141	2	85
	県 内	4	181	5	124	2	34	1	10
12・9	全 体	24	2171	2	225	9	759	3	42
	県 内	15	1296	0	0	6	259	2	14
12・10	全 体	272	22250	20	2327	12	1462	10	176
	県 内	98	7026	6	307	3	152	5	86
12・11	全 体	73	5117	26	4012	10	801	1	26
	県 内	41	2508	8	886	2	92	0	0
12・12	全 体	4	345	1	29	8	586	2	44
	県 内	1	146	0	0	5	209	2	44
13・1	全 体	10	723	0	0	4	851	1	18
	県 内	5	388	0	0	3	514	0	0
13・2	全 体	38	2413	3	495	1	17	0	0
	県 内	21	962	1	269	1	17	0	0
13・3	全 体	13	933	7	615	7	604	1	34
	県 内	3	258	3	2	3	365	1	34
計	全 体	656	49478	184	22580	109	13185	33	722
	県 内	274	17426	48	3617	44	3729	20	291

(3) 曜日別入館者数

年 月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日を除く)	そ の 他	計	
12	4	14,795	5,581	15,157	35,533
	5	26,516	9,097	23,910	59,523
	6	12,913	7,595	24,307	44,815
	7	21,163	10,127	16,699	47,989
	8	16,528	10,763	46,411	73,702
	9	18,254	7,330	12,791	38,375
	10	18,049	7,538	41,830	67,417
	11	17,083	7,139	22,135	46,357
	12	7,272	2,406	5,023	14,701
13	1	6,886	3,403	6,695	16,984
	2	13,115	4,352	7,494	24,961
	3	12,297	6,587	13,839	32,723
計	184,871	81,918	236,291	503,080	
構成割合%	36.7	16.3	45.0	100.0	

2. 来館者アンケート調査結果報告

来館者動向を把握するために、来館回数、情報源、年齢、住まいなどの通常アンケート項目に加えて今年度は、よりよい運営を目指すために開館時間や交流員に関する項目も追加して行った。なお、通常3月に行っているアンケートを4月に行ったので、今回は年度が異なるがここに記した。

回	調査期日	回答者数
1	2000年 8月11・13日	653人
2	2001年 1月4・8日	697人
3	2001年 4月27・29日	329人

【来館者の動向】

開館以来「はじめて」という人は毎年減少し、その逆に「3回以上」「4回以上」というリピーターが増え続けている。リピーターの割合は、1999年度以降40パーセントを越えている。

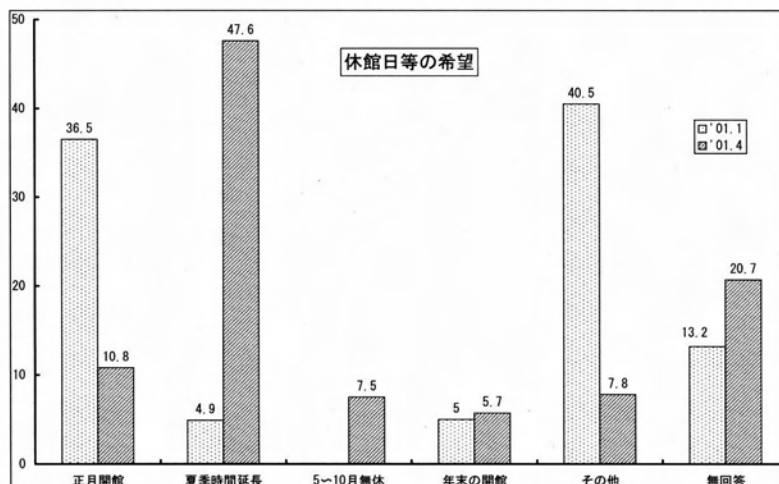
「情報源」の比較では相変わらず友人や家族などの口コミや雑誌が多い。今回掲載した今年度3月のデータで「その他」が多いのは、アンケート調査中に学校団体が多く来館したことによるものである。

年齢をみると、今回は10代が多いのも、学校団体の来館によるものである。これらは、これまで3月のアンケートが春休み中に行われていたのに対して、今回は平日が含まれていたことが原因である。平日と長期の休み期間中では、来館者層に違いのあることが伺える。

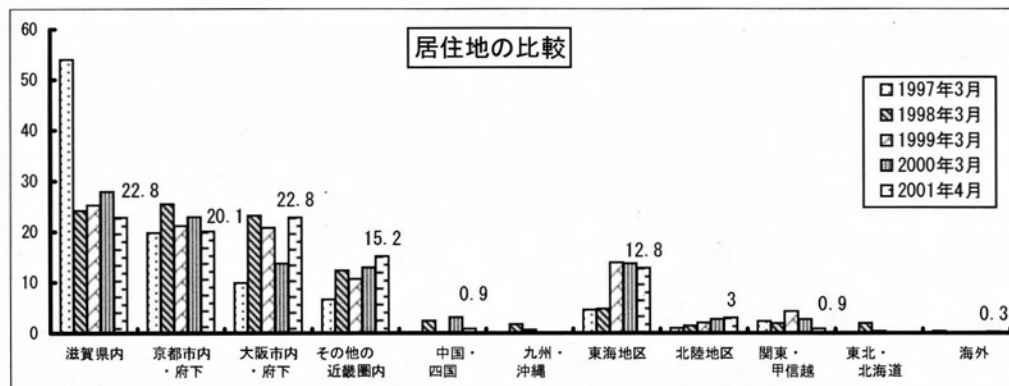
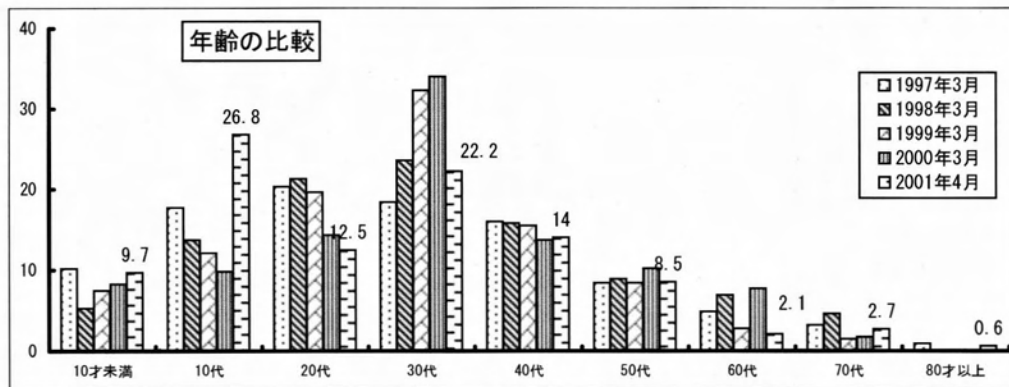
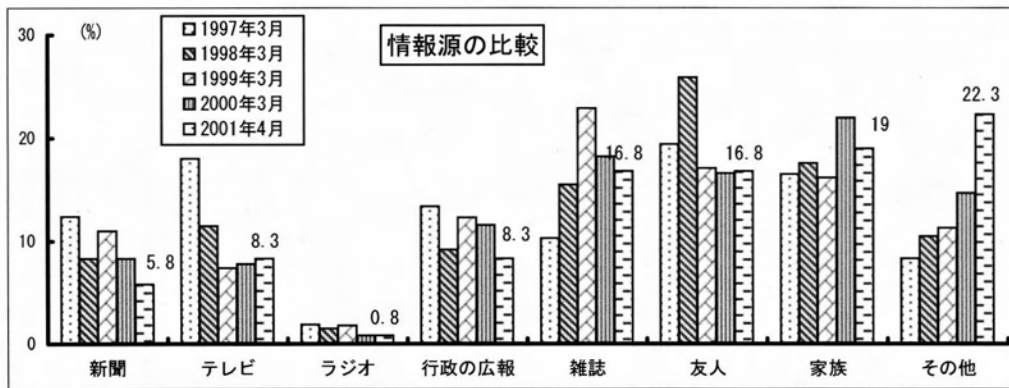
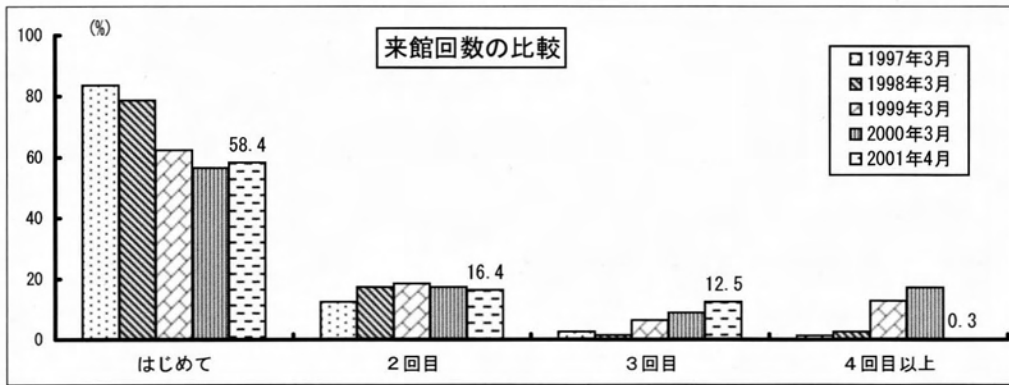
また、「居住地」比較では、滋賀県内、京都、大阪がほぼ同じ割合である。その他の傾向はあまり変わらない。

交流員に関する質問では、アンケートに回答した60パーセントの人が、交流員を知らないと答えた。展示交流員と話した印象は、「親切」「ていねい」「やさしい」などで、交流員を知っていて「良かった」と答えた来館者は66.4パーセントであった。全体で「悪かった」と答えたのは0.6パーセントであったが、知っていて「悪かった」と答えたのは0パーセントであった。

開館時間や休館日の変更については、1月のアンケートでは正月開館が36.5パーセントと最も多かったが、4月のアンケートでは夏季時間の延長の希望が最も多かった。この問題については今後、さらに来館者のニーズを検討するとともに、運営上の問題点も整理して検討していきたい。



休館日および開館時間の延長に関するアンケート結果



3. 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布	6	1	現代のことば「熱帯」と「寒帯」のヨーロッパで川那部浩哉	京都新聞
	3	「見て食べよう！四季の漁業」春編ウグイ見て食べよう開催	朝日新聞		2	琵琶湖の生物たち「ソウギョ」	産経新聞
	4	琵琶湖竹生島カワウから苗木守れ 亀田佳代子学芸技師の話	京都新聞		2	お宅の雑煮は関西風？それとも関東風？県立琵琶湖博物館調べ	毎日新聞
	6	現代のことば 「世界湖沼会議を」みんなで作り上げるために 川那部浩哉	京都新聞		4	<新書紹介>「魚魚食紀」川那部浩哉著	読売新聞
	8	琵琶湖博物館調査報告、実費で配布	朝日新聞		4	草津郵便局強盗未遂事件犯人捕らえた榊永学芸員に感謝状	読売新聞
	17	Mie's green tax draws fire 嘉田由紀子研究顧問の話	ASAHI EVENING NEWS		6	水と文化研究会 ホタル生息数観測活動記録など出版	読売新聞
	21	琵琶湖の生物たち「カムルチー」	産経新聞		7	<近江点検>雇用対策事業、どこまで効果	朝日新聞
	23	暮らしの智恵「ふなずし」教室琵琶湖博物館で開催	京都新聞		9	伊吹山文化資料館でカタツムリ探検隊 中井克樹学芸員が指導	京都新聞
	26	琵琶湖の春の味覚ホンモロコ激減 前畑改善・専門学芸員の話	朝日新聞			大分県安心院の「津房川層」から70種の化石どっと	
	26	春の超大物 94センチのコイ 琵琶湖博物館の話	朝日新聞		10	琵琶湖博物館 共同発掘調査	日本経済新聞
	27	琵琶湖博物館が調査報告書を一般頒布	滋賀報知新聞		10	大分の400万年前地層で発見 熱帯カメの化石も	中日新聞
	29	GW行楽地人出予想	中日新聞		10	動物相変遷の貴重資料 県立琵琶湖博物館発表	中日新聞
5	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布		10	大分・安心院「津房川層」動物化石1000点	産経新聞
	9	新聞時評「2人目の女性知事誕生の意味」嘉田由紀子	毎日新聞(全国版)		10	大分で発見の化石 亜熱帯のカメだった	毎日新聞
	10	強盗取り押さえる 榊永一学芸員	読売新聞		10	動植物化石どっさり	中日新聞
	12	琵琶湖の生物たち「ギギ」	産経新聞		10	「亜熱帯・九州!」化石1000点	読売新聞
	14	<井戸端会議>に投稿 フナずしの漬付け方を教えて	京都新聞		10	400万年前の動植物化石70種	京都新聞
	17	友好都市・湘潭市一行 琵琶湖博物館訪問の予定	読売新聞		10	動物化石ざくざく	朝日新聞
	17	行ってみようミュージアム 琵琶湖博物館紹介	読売新聞		10	教諭の情熱、ロマン“発掘”安心院のせきつい動物化石群	読売新聞
	19	県立琵琶湖博物館 仏の生物環境教育国際シンポに参加	中日新聞		13	大分出土の動物化石群“琵琶湖誕生”解明も期待	読売新聞
	21	<ひとと往来>自然は上手に利用を 矢野晋吾学芸技師	朝日新聞		14	「エコ草津体験隊」スタート	京都新聞
	27	容疑者の逮捕に協力の榊永学芸員に感謝状	京都新聞		15	琵琶湖博物館「ほねほね化石・発見ものがたり」発行	京都新聞
	27	草津郵便局強盗の逮捕に協力の榊永学芸員に感謝状	産経新聞		15	草津市 小4対象に「エコ探検隊」	中日新聞
	27	守山で32年ぶりホタル研究大会 琵琶湖博物館を見学	京都新聞		15	カエルの声で演奏会 琵琶湖博物館で開催	京都新聞
	27	全国ホタル研究大会守山で開催 最終日に琵琶湖博物館見学	産経新聞		16	<この人>オオアタマガメなど貴重な化石を発見した中学教諭、北林栄一さん	中日新聞
	31	北朝鮮の青年代表団が民間交流 琵琶湖博物館を見学	毎日新聞		18	<新書紹介>「魚魚食紀」川那部浩哉著	中日新聞
6	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布		16	環境の世紀 インタビュー「水俣へ」嘉田由紀子琵琶湖博物館研究顧問	熊本日日新聞
	1	パリで「生物環境教育2000」琵琶湖博物館が世界へ発信	滋賀報知新聞		19	「世界湖沼会議」の提言目指し 学生がシンポ	産経新聞
					20	エコ草津体験隊琵琶湖の環境考えよう	産経新聞
					21	暮らしの智恵「ピワマス」豪快なアメノイオ御飯 桑村邦彦主査が紹介	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	20	日本ボランティア学会で嘉田由紀子琵琶湖博物館研究顧問がパネラーに	中日新聞	7	12	津田内湖の復元を川那部浩哉琵琶湖博物館館長が「津田内湖復元研究会」委員長に	朝日新聞
	20	第2回日本水大賞審査委員に川那部浩哉琵琶湖博物館館長	読売新聞		11	琵琶湖博物館 県鳥カイツブリ産卵日本初の人工繁殖期待	読売新聞
	23	水路泳ぐ巨大ゴイ捕獲 琵琶湖博物館の話	読売新聞		12	<近所の有名人>カタツムリ研究の中井克樹さん(琵琶湖博物館主任学芸員)	朝日新聞(7/7/7AI滋賀)
	23	世界湖沼会議「学生ネット」25日に立ち上げシンポ	朝日新聞		15	<ゆうかんさろん>化石は貴重な資料 高橋啓一専門学芸員	中日新聞
	23	県民から委員を初公募 県立琵琶湖博物館	京都新聞		15	<近畿カメラ散歩>滋賀県立琵琶湖博物館紹介	産経新聞
	24	世界湖沼会議学生ネットワーク 草津でシンポ	中日新聞		15	世界湖沼会議 19日に実行委初会合	京都新聞
	24	展示の裏話12編「ほねほね化石」発行 琵琶湖博物館	滋賀報知新聞		17	夏の琵琶湖 人気 琵琶湖に修学旅行の誘致	朝日新聞
	25	世界湖沼会議企画委員会が初会合、川那部浩哉琵琶湖博物館館長運営調整会議議長	毎日新聞		17	「魚々食紀」川那部浩哉著 紹介	産経新聞
	25	世界湖沼会議に向け、学生の交流組織発足へ	毎日新聞		17	県立琵琶湖博物館で企画展 懐かしい食文化と生活再現	京都新聞
	28	琵琶湖のヨシ刈り ヨシにも魚にも「x」琵琶湖博物館桑村邦彦主査の話	毎日新聞		16	<近江情報箱>ほん紹介「博物館うらおもて ほねほね化石・発見ものがたりーびわ湖のほとりから」発売	朝日新聞
	28	レッドデータブック県内版を8月発刊 琵琶湖博物館「ハリヨ」写真提供	読売新聞		18	琵琶湖博物館で企画展 琵琶湖と違う?霞ヶ浦の魚たち	読売新聞
	29	<論点>増える美術館ボランティア 滋賀県立琵琶湖博物館は「はしかけ制度」	京都新聞		19	津田内湖を復元市民会議設立へ パンプ作成、参加呼びかけ	読売新聞
	29	県がレッドリスト 県内の野生生物1077種に”赤信号” 琵琶湖博物館「ハリヨ」写真提供	中日新聞		19	県立琵琶湖博物館企画展 60年代の商店街を再現	読売新聞
	30	琵琶湖の生物たち「カワヨシノボリ」	産経新聞		19	世界中の淡水魚 標本づくり 琵琶湖博物館提供呼びかけ	朝日新聞
	29	<こまど>丸子船	京都新聞		19	県観光客数4年連続最高 琵琶湖博物館は2割以上減	日本経済新聞
7	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布		19	県内観光客数4年連続伸び 琵琶湖博物館は2年連続減少	京都新聞
	2	<ひと往来>世界湖沼会議学生ネットワークが参加の呼びかけ	朝日新聞		20	琵琶湖博物館 オランダで「鯰」彩色画を確認	滋賀報知新聞
	2	探検の殿堂リニューアルへ 嘉田研究顧問検討委員に	中日新聞		20	世界湖沼会議準備委が初会合	中日新聞
	3	木之本町黒田村づくり委員会 魚や貝を引っ越し、中井、松田主任学芸員が指導	朝日新聞		20	世界湖沼会議「琵琶湖宣言」採択へ	読売新聞
	3	木之本のほ場予定地「貝の引っ越し」児童ら手伝い	読売新聞		20	世界湖沼会議 実行委が初会合	京都新聞
	3	木之本のほ場整備予定の田 安住の地求め貝の引っ越し	中日新聞		20	世界湖沼会議 実行委が初会合	毎日新聞
	4	琵琶湖博物館 カイツブリ2個産卵 飼育の繁殖例国内では初	京都新聞		21	<異見、卓見>世界湖沼会議実行委企画委員長 川那部浩哉さんに聞く	京都新聞
	6	<環境と暮らし>津田内湖復活へ熱い思い込めパンプ作成	毎日新聞		21	滋賀県立琵琶湖博物館 国内初 県の鳥カイツブリの卵ふ化	日本経済新聞
	6	津田内湖を考える市民会議 参加募りパンプ作製	産経新聞		21	カイツブリふ化成功 琵琶湖博物館人工繁殖で国内初	読売新聞
	6	県版レッドリストまとめ 植物、鳥・魚類など1077種	産経新聞		22	カイツブリにひな 琵琶湖博物館飼育下での繁殖は初	毎日新聞
	9	「魚々食紀」川那部浩哉著 紹介	京都新聞		23	<発信>滋賀県立琵琶湖博物館観察会「ブナの森を調べよう」募集案内	産経新聞
					24	国定公園指定50周年記念 琵琶湖博物館で風景をテーマにしたシンポジウム開催	毎日新聞
					24	守山 木浜内湖再生へ観察会	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	24	県琵琶湖博物館 カイツブリひな誕生	中日新聞	8	11	琵琶湖の生物たち「ドンコ」(写真提供)	産経新聞
	25	琵琶湖博物館のカイツブリのひな死亡	毎日新聞		12	琵琶湖博物館 飼育のカイツブリ先月に続いて産卵	京都新聞
	25	人工飼育カイツブリのひな死亡 琵琶湖博物館「全国初」ならず	京都新聞		13	希少淡水魚の復活作戦 琵琶湖博物館が成功	京都新聞
	26	暮らしの智恵「フナズシの飯漬け」ふなずし教室第2回目琵琶湖博物館	京都新聞		15	県立琵琶湖博物館 霞ヶ浦の今を紹介	朝日新聞
	26	国定公園指定50周年記念 琵琶湖博物館で「琵琶湖・昔・今・これから」シンポジウム開催	京都新聞		15	琵琶湖博物館「水環境カルテ」HP公開	読売新聞
	26	琵琶湖博物館 カイツブリひな死亡	読売新聞		16	文化&レジャー 県立琵琶湖博物館が「資料展」開催	朝日新聞(アイアイ滋賀)
	27	「淀川水系流域委員会準備会議」の委員に、川那部浩哉琵琶湖博物館長ら四人	京都新聞		17	琵琶湖博物館 19,20日夏休み相談室開設	毎日新聞
	27	<論点>国土利用の常識 覆す試み「津田内湖復元研究会」川那部浩哉琵琶湖博物館長ら立ち上げ	京都新聞		17	「琵琶湖の風景を考えるシンポジウム」開催 県自然保護課開催	中日新聞
	28	21世紀記念事業協会「サマーセミナー2000」を開催	京都新聞		17	<くらし情報>琵琶湖博物館が夏休み相談室開催	中日新聞
	30	世界湖沼会議企画委員会「パフォーマンス発表認めよう」	読売新聞		18	琵琶湖博物館「夏休み相談室」開催 集めた標本の調べ方伝授	読売新聞
	30	体験・大発見!! 琵琶湖博物館の8月の催し物案内	各紙滋賀版 広告欄		18	琵琶湖の生物たち「ハリヨ」(写真提供)	産経新聞
	30	世界湖沼会議 企画委員会が初会合 全体会議の内容など検討	京都新聞		18	日本初「リビングレイクス」会議開催 湖沼会議市民ネットが窓口	毎日新聞
	30	世界湖沼会議 企画委員会 市民の参加図ろう	朝日新聞		20	草津の琵琶湖博物館 児童が研究相談	中日新聞
	30	夏休み“文化情報”大特集8月のあんない 琵琶湖博物館へ行こう	滋賀民報		21	琵琶湖博物館「夏休み相談室」開催 生き物や化石持ち寄り質問	京都新聞
	31	琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターの自然観察会琵琶湖博物館の学芸員が講師に	中日新聞		21	琵琶湖がポスター作製 琵琶湖の魚全75種一目で	京都新聞
	31	琵琶湖博物館で企画展開催中「湖の魚・漁・食-淡海あれこれ商店街」	滋賀報知新聞		22	琵琶湖博物館と地域「はしかげさん」やーい	読売新聞
8	1	滋賀プラス 1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布		22	「夏休み相談室」に持ち寄りの化石 シガゾウ臼歯であることを確認	京都新聞
	1	3日から琵琶湖博物館一日学芸員実施	京都新聞		24	琵琶湖博物館 水環境カルテを公開	朝日新聞
	1	琵琶湖博物館 希少淡水魚13種のふ化に成功	産経新聞		25	琵琶湖博物館で企画展 漁師の智恵、食文化紹介	読売新聞
	2	<オピニオン解説>琵琶湖危機にひんする生態系 前畑専門学芸員の話	京都新聞		25	琵琶湖の生物たち「イチモンジタナゴ」(写真提供)	産経新聞
	3	琵琶湖の魚知って! マキノ町の画家・今森さん「びわこの魚たち」出版	朝日新聞		25	「津田内湖を考える市民会議」設立大会開催、川那部浩哉琵琶湖博物館館長らが話し合い	朝日新聞
	3	県立琵琶湖博物館に魚屋や定食屋が出現 企画展「湖の魚・漁・食」開催	朝日新聞		25	琵琶湖博物館学芸員亀田佳代子さんにハン六文化振興財団から助成	中日新聞
	3	琵琶湖博物館で企画展-霞ヶ浦の魚、食文化紹介	京都新聞		25	琵琶湖博物館学芸員亀田佳代子さんにハン六文化振興財団から助成	京都新聞
	4	琵琶湖の生物たち「カジカ」(写真提供)	産経新聞		25	滋賀県立琵琶湖博物館「湖の魚・漁・食-淡海あれこれ商店街」開催	日本教育新聞
	5	「地球市民の森」(仮称) づくりの懇話会開催	中日新聞		27	県立琵琶湖博物館利用者や地域と「はしかげ」期待	中日新聞
	9	琵琶湖博物館のもよおしもの案内	朝日新聞(アイアイ滋賀)		28	琵琶湖博物館学芸員亀田佳代子さんにハン六文化振興財団から助成	産経新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	30	県琵琶湖博物館カイツブリのひな、相次ぎ死ぬ	中日新聞	10	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布
	30	モクズガニ 高時川で捕獲 県立琵琶湖博物館の話	毎日新聞		5	県立琵琶湖博物館で絵画展 子どもの目で見た琵琶湖の姿	朝日新聞
	30	文化&レジャー 県立琵琶湖博物館のもよおしもの案内	朝日新聞(アイアイ滋賀)		11	企画特集 湖国・近江へようこそ 県立琵琶湖博物館紹介	毎日新聞
	30	琵琶湖博物館 カイツブリのひな誕生間なしに死ぬ	京都新聞		18	琵琶湖博物館 21日から4周年記念事業「里山から湖と人間をかんがえる」開催	京都新聞
	31	県立琵琶湖博物館 水利用の変化HP上で公開	京都新聞		21	琵琶湖博物館開館4周年記念事業開催 自然テーマにコンサート	朝日新聞
9	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布		21	琵琶湖博物館4周年記念事業「里山から湖と人間を考える」開催	毎日新聞
	1	琵琶湖の生物たち「デメモロコ」(写真提供)	産経新聞		21	米国人留学生 琵琶湖博物館で川那部浩哉館長から聞き取り	中日新聞
	3	「世界湖沼会議」第二回企画委員会 活発に意見交換	産経新聞		21	県立琵琶湖博物館でミニシンポ開催 県立琵琶湖研究所などが主催	中日新聞
	3	世界湖沼会議第二回実行委企画委員会 進行方法などを討議	京都新聞		26	県立琵琶湖博物館 ビワマスの産卵観察会を開催	産経新聞
	4	「絶滅危ぐ種 ミズアオイ開花」県立琵琶湖博物館 芦谷美奈子学芸員の話	朝日新聞		26	湖南地域二市三町の観光振興協議会 一日乗り放題バス4日間運行、琵琶湖博物館もルートに	産経新聞
	5	座談会「川辺川」アユ味わい語る 川那部浩哉さん「環境」が新たな目的に	朝日新聞		27	<社説>琵琶湖博物館川那部浩哉館長らが委員を務める会議の手法について	京都新聞
	7	タンカイザリガニ激減 県立琵琶湖博物館秋山廣光主任学芸員の話	朝日新聞		27	宇治・小椋池干拓田の用水路で、メダカ大群でスイスイ、滋賀県立琵琶湖博物館の話	京都新聞
	8	琵琶湖の生物たち「ムギツク」(写真提供)	産経新聞		29	<Bigインタビュー>開発優先、車中心の社会考え直すとき、琵琶湖博物館館長 川那部浩哉さん	京都民報
	9	<明日へのラブレター>淀川のシンボルがあぶない 元淡水魚保護協会理事長木村英造さんに琵琶湖博物館館長川那部浩哉さんのコメント	京都新聞		30	県石材組合連合会青年部 琵琶湖博物館に「きれいな琵琶湖」願い モニュメント建立	中日新聞
	10	県立琵琶湖博物館が研究や資料収集参加の「はしかげさん」募集	朝日新聞		30	琵琶湖博物館に彫刻寄贈 県石材組合連青年部	京都新聞
	11	<みず紀行>淡水魚の「名地」琵琶湖博物館	毎日新聞		11	1 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布
	12	琵琶湖の在来種「タモロコ」湖岸を追われ内陸部へ 淡海魚類研究会と県立琵琶湖博物館の共同調査でわかる	朝日新聞		2	<新刊紹介>こどもの本 博物館を楽しむ	読売新聞
	15	琵琶湖の生物たち「タイリクバラタナゴ」(写真提供)	産経新聞		4	琵琶湖博物館入館300万人を達成	中日新聞
	15	<よし笛>現実と夢の大切さ 榮樂徹さん	京都新聞		4	入館300万人目 滋賀県立琵琶湖博物館	京都新聞
	15	川那部浩哉琵琶湖博物館館長「琵琶湖総合保全学術委員会」副委員長に	京都新聞		4	琵琶湖博物館300万人を突破 開館から4年	朝日新聞
	21	ローターアクトクラブ「琵琶湖を守れ！」の活動報告 琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員が講演	中日新聞		4	入館者が300万人超す 県立琵琶湖博物館	毎日新聞
	22	琵琶湖の生物たち「アブラボテ」(写真提供)	産経新聞		4	琵琶湖博物館 入館者300万人突破	産経新聞
	28	琵琶湖の思いを絵画に 琵琶湖博物館で一日学芸員絵画展開催	京都新聞		7	世界の湖沼NGOが集合 環境教育について嘉田由紀子研究顧問が講演	中日新聞
	29	琵琶湖の生物たち「アブラボテ」(写真提供)	産経新聞		7	「リビングレイクス国際会議」で嘉田由紀子研究顧問が基調講演	京都新聞
					8	「マザーレイク21」計画策定 琵琶湖博物館航空で写真で紹介	読売新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	8	写真家・マツシマススムさんが琵琶湖博物館紹介	読売新聞	11	29	環境学習フェア始まる 県立琵琶湖博物館で	毎日新聞
	10	中国の水利部幹部 湖南での取り組みを視察 琵琶湖博物館を視察	京都新聞		30	湖南省の教育代表団 県立琵琶湖博物館を見学	中日新聞
	10	「ヨシシンポジウム」開催 主催淡海環境保全財団	中日新聞		30	「農の匠」認定者の手工芸など作品展開催 県立琵琶湖博物館	京都新聞
	10	「ヨシシンポジウムよみがえれ、びわ湖のヨシ」開催 主催 淡海環境保全財団	産経新聞		30	「県地球温暖化防止活動推進センター設立記念シンポジウム」開催 淡海環境保全財団主催	京都新聞
	10	「ヨシシンポジウム」開催主催淡海環境保全財団	京都新聞				
	10	シンポジウム「よみがえれ、びわ湖のヨシ」開催 主催淡海環境保全財団	毎日新聞	12	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布
	11	「リビングレイクス」と「プレ学生セッション」開幕嘉田由紀子研究顧問が基調講演	毎日新聞		1	「世界湖沼会議プレNGOワークショップ-協働に向けたビジョンを求めて」開催湖沼会議市民ネット・(財)国際湖沼環境委員会主催	毎日新聞
	11	リビングレイクス会議NGOと交流へ琵琶湖博物館見学	朝日新聞		3	農村の技で魅せます 琵琶湖博物館で農の匠作品展開催	中日新聞
	11	リビングレイクス会議 琵琶湖博物館見学会やNGOと交流へ	産経新聞		4	木浜内湖の再生地元住民が討論 主催 木浜内湖再生フォーラム	読売新聞
	12	琵琶湖博物館 入場者300万人突破	読売新聞		4	「内湖再生会議」開催 主催木浜内湖再生フォーラム	中日新聞
	12	「リビングレイクス国際会議」環境教育で論議 嘉田由紀子研究顧問が講演	京都新聞		4	県立琵琶湖博物館「子ども会議」開催 展示品に子供の意見を	読売新聞
	12	「プレ学生セッション」開幕 琵琶湖博物館見学会や交流会	産経新聞		4	子ども会議で提案 琵琶湖博物館将来像に要望続々	京都新聞
	12	リビングレイクス会議2日目 琵琶湖博物館の活動方針など説明 嘉田研究顧問	中日新聞		4	琵琶湖博物館子ども会議 学芸員体験の小中学生中長期計画に意見	中日新聞
	12	「リビングレイクス会議」嘉田研究顧問が講演	朝日新聞		4	「琵琶湖博物館子ども会議」開催 子ども会議に39人参加	朝日新聞
	12	レイクス会議2日目 嘉田研究顧問が講演	読売新聞		5	湖沼会議で何をする？琵琶湖博物館でワークショップ	京都新聞
	12	リビングレイクスとプレ学生セッション	毎日新聞		5	シンポジウム「今、我々にできること」開催 淡海環境保全財団主催	読売新聞
	15	暮らしの智恵「じゅんじゅん」桑村邦彦主査が紹介	京都新聞		6	文化&レジャー 県立琵琶湖博物館のもよおしもの案内	朝日新聞(アイアイ滋賀)
	15	琵琶湖の生物たち「イワナ」(写真提供)	産経新聞		7	「水環境生態系保全のための市民活動とパートナーシップのあり方について」開催湖沼会議市民ネット・国際湖沼環境委員会主催	朝日新聞
	18	<読者の欄>「よみがえれ琵琶湖のヨシ」シンポジウムより感想	京都新聞		7	「世界湖沼会議プレNGOワークショップ」開催 湖沼会議市民ネット・国際湖沼環境委員会主催	中日新聞
	24	琵琶湖の生物たち「アメノドジョウ」(写真提供)	産経新聞		7	シンポジウム「琵琶湖総合保全のためのパートナーシップ」開催 国土庁主催琵琶湖の生物たち「ナマズ」(写真提供)	中日新聞
	24	全国環境学習フェアを誘致 琵琶湖博物館を会場	中日新聞		8	食事文化研究会 来年3月、シンポ開催琵琶湖博物館研究顧問 嘉田由紀子が記念講演	毎日新聞
	24	「水と文化研究会」マラウイ湖で聞き取り調査	朝日新聞		8	<ひと往来>「海とさかな」コンクールで農林水産大臣賞受賞の福山高典君将来の夢は県立琵琶湖博物館の研究員	朝日新聞
	27	<ひと往来>マラウイ湖で水利用調査水と文化研究会の小坂育子さん	朝日新聞				
	29	<溶け込む>琵琶湖博物館主任学芸員グライガーさん カイエビにとりつかれて…	朝日新聞(アイアイ滋賀)		10		
	29	県環境学習フェア 県立琵琶湖博物館で開催	中日新聞		10		
	29	県環境学習フェア始まる 琵琶湖博物館の企画展示室で	京都新聞				

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	10	世界湖沼会議プレNGO熱い討論 湖沼会議市民ネット・国際湖沼環境委員会主催	中日新聞	1	4	第9回世界湖沼会議「琵琶湖」を報告そして発信	京都新聞
	10	湖沼会議に向けNGO意見交換 湖沼会議市民ネット・国際湖沼環境委員会主催	読売新聞		5	魚の目鳥の目「ヨシ原」布谷知夫総括学芸員の話	中日新聞
	10	湖沼保全へNGO討議 湖沼会議市民ネット・国際湖沼環境委員会主催	京都新聞		8	魚の目鳥の目「ニゴロブナ」桑村邦彦交流センター科主査の話	中日新聞
	10	「住民参加」テーマに議論 湖沼会議市民ネット・国際湖沼環境委員会主催	毎日新聞		8	<世界湖沼会議に向けて>企画委員長川那部浩哉氏に聞く	産経新聞
	10	各地のNGO水環境保全へ意見交換 湖沼会議市民ネット・国際湖沼環境委員会主催	朝日新聞		10	魚の目鳥の目「ブラックバス」中井克樹主任学芸員の話	中日新聞
	12	「みんなで進めるびわ湖の総合保全」開催 琵琶湖・淀川水質保全機構主催	毎日新聞		10	<新・琵琶湖宣言>アフリカの湖畔の村で確かめた「水はいのち」水と文化研究会事務局長 小坂育子さん	毎日新聞
	12	総合討論「世界湖沼会議に向けて」鋭い提言熱い要望 湖沼会議市民ネット・国際湖沼環境委員会主催	中日新聞		11	琵琶湖国定公園 風景のあり方探るシンポジウム開催 県自然保護課主催	朝日新聞
	13	「みんなで進めるびわ湖の総合保全」開催 国土庁主催	京都新聞		11	魚の目鳥の目「カイツブリ」亀田佳代子学芸技師の話	中日新聞
	14	「みんなで進めるびわ湖の総合保全」開催 国土庁主催	毎日新聞		15	シンポジウム「琵琶湖の風景を考える」開催 県自然保護課主催	朝日新聞
	14	「みんなで進めるびわ湖の総合保全」開催 国土庁主催	中日新聞		15	「琵琶湖の風景を考えるシンポジウム」開催 県自然保護課主催	産経新聞
	15	琵琶湖の生物たち「ヤリタナゴ」(写真提供)	産経新聞		15	「琵琶湖の風景を考えるシンポジウム」開催 県自然保護課主催	読売新聞
	15	農林水産大臣賞受賞の福山嵩典くんの紹介	朝日小学生新聞		15	琵琶湖の風景を考えるシンポジウム「琵琶湖・昔・今・これから」開催 県自然保護課主催	中日新聞
	17	近江のお雑煮事情 琵琶湖博物館フィールドレポーター調査より桑村邦彦	滋賀民報		17	<湖国ひと模様>「石になった足跡へこみの正体をあばく」を出版 琵琶湖博物館資料調査員の岡村嘉明さん	毎日新聞
	17	滋賀の食事文化研究会 来春、滋賀の食事博開催 嘉田由紀子・京都精華大学教授の記念講演	中日新聞		17	文化&レジャー 県立琵琶湖博物館のもよおしもの案内	朝日新聞(アイアイ滋賀)
	20	<メール>「アカムシユスリカ」について榊永一宏学芸員の話	朝日新聞		19	琵琶湖の生物たち「アブラヒガイ」(写真提供)	産経新聞
	21	「津田内湖復元研究会」(委員長川那部浩哉琵琶湖博物館長) 小学5、6年生から作文募る	朝日新聞		22	<世界湖沼会議に向けて>冒険するプログラムを企画 川那部浩哉委員長	産経新聞
	21	「県ごみの散乱防止に関する条例」標語とポスターの表彰式 琵琶湖博物館で開催	読売新聞		22	<琵琶湖・淀川との共生>県立琵琶湖博物館のトンネル水槽写真紹介	毎日新聞
	22	琵琶湖の生物たち「ウキゴリ」(写真提供)	産経新聞		22	<言いたい聞きたい>滋賀県立琵琶湖博物館交流センター主任主事 中川修さん	毎日新聞
	22	環境問題、多様な切り口 京都精華大・環境社会学科の紹介 元滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員 嘉田由紀子さんより	朝日新聞		24	<新世紀 託す思い>水の生活文化 京都精華大教授 嘉田由紀子さん 琵琶湖博物館にて	毎日新聞
1	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布		24	ブルーギルは淀川が大好き 滋賀県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話	日本経済新聞
	1	“いのちの水”受け継いで 県立琵琶湖博物館所蔵の前野隆資さんの写真提供	毎日新聞		26	県立琵琶湖博物館 I L E C 展示コーナー3月に新施設完成	毎日新聞
	4	魚の目鳥の目「ビワコオオナマズ」前畑政善専門学芸員の話	中日新聞		27	琵琶湖博物館民俗資料展 フナをとる漁具、一堂に	京都新聞
					28	琵琶湖博物館 フナ漁の道具一堂に民俗資料展開催	産経新聞
					28	琵琶湖博物館 フナ漁の漁具86点展示	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	28	京都芸術センター「チャンネルNー多層世界への水路」開催 琵琶湖博物館「マメの世界」テーマに展示	京都新聞	2	11	<ことば>世界湖沼会議 川那部浩哉 琵琶湖博物館館長中心に開催計画	産経新聞
	29	コクチバス琵琶湖水系に 滋賀県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話	朝日新聞		12	「湖沼の食文化」紹介 玉造・霞ヶ浦水産フェスタで琵琶湖博物館主査桑村邦彦さん	茨城新聞
	29	県立琵琶湖博物館「フナをとる漁具」展開催	中日新聞		15	琵琶湖博物館「古代湖ー生物多様性、生態学、進化」古代湖の考古学」出版	京都新聞
	30	「世界水フォーラム」東京で第一回運営委員会 川那部浩哉県立琵琶湖博物館館長 委員に	中日新聞		17	琵琶湖に新種プランクトン 辻彰洋琵琶湖博物館特別研究員が発見	中日新聞
	30	「世界水フォーラム」東京で初の運営委員会 川那部浩哉県立琵琶湖博物館館長 運営委員に	京都新聞		17	琵琶湖に新種の藻類 辻彰洋琵琶湖博物館特別研究員が発見	京都新聞
	31	水環境シンポジウム「関西ウオーター琵琶湖・淀川と共生を考える」嘉田由紀子氏基調講演	毎日新聞		17	琵琶湖固有の新種の珪藻類を確認 辻彰洋琵琶湖博物館特別研究員が発見	毎日新聞
					17	固有のプランクトン2種発見 辻彰洋琵琶湖博物館特別研究員が発見	産経新聞
2	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布		17	琵琶湖博物館新種のプランクトン確認 発見者は辻彰洋琵琶湖博物館特別研究員	朝日新聞
	1	琵琶湖博物館「化石に親しむ体験学習会」開催	読売新聞		17	滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖の固有の新種のプランクトン確認	読売新聞
	2	世界湖沼会議時に議員セッションを開催企画 滋賀県議会主催	京都新聞		17	琵琶湖に新種プランクトン 琵琶湖博物館が確認	熊本日日新聞
	2	世界湖沼会議期間中に議員セッション開催 滋賀県議会主催	読売新聞		17	琵琶湖に新種プランクトン 琵琶湖博物館確認	茨城新聞
	2	世界湖沼会議時に県議会が自主セッション開催	中日新聞		24	湖沼会議人気です 自主企画希望が42件	読売新聞
	2	11月の湖沼会議「議員セッション」開催 滋賀県議会主催	毎日新聞		24	京都大生態研センターの3教官追悼へ 偲ぶ会 川那部浩哉琵琶湖博物館長らが挨拶	京都新聞
	3	琵琶湖博物館館内展示、小学生が取材して君も「ディズカバ特派員」開催	京都新聞		24	こどもエコクラブ会員一堂に草津でフェス会場烏丸半島・琵琶湖博物館	中日新聞
	4	世界湖沼会議 内外議員が意見交換県議会議員が主催	朝日新聞		24	全国の「こどもエコクラブ」草津でフェス 会場烏丸半島・琵琶湖博物館	京都新聞
	4	平安神宮の神苑に外来種シジミ 琵琶湖博物館松田征也主任学芸員の話	京都新聞		25	世界湖沼会議実行委企画委 論文選考方法決める川那部浩哉委員長ら	中日新聞
	5	「淀川水系流域委員会」の設立会 琵琶湖部会長に川那部浩哉琵琶湖博物館館長	京都新聞		26	第9回世界湖沼会議 琵琶湖の体験21世紀へ 環境シンポで嘉田由紀子京都精華大教授	毎日新聞
	5	琵琶湖に飛来のコハクチョウ329羽過去最高 琵琶湖博物館亀田佳代子学芸技師の話	朝日新聞		26	世界湖沼会議に向けて NGOネット 琵琶湖博物館でプレワークショップ開催	産経新聞
	6	県議会 世界湖沼会議にあわせ「議員セッション」開催	産経新聞		28	県立琵琶湖博物館 世界古代湖会議で発表の論文2冊発行	中日新聞
	6	県立琵琶湖博物館 フィールドレポーター調査報告	朝日新聞		28	文化&レジャー 県立琵琶湖博物館のもよしもの案内	朝日新聞(アイアイ滋賀)
	7	カワウのフン害ネットで撃退 カワウの写真提供	読売新聞				
	8	琵琶湖博物館が募集「特派員」になりませんか	朝日新聞	3	1	滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内	各紙折り込み、各戸配布
	9	琵琶湖の生物たち「アカザ」(写真提供)	産経新聞		7	文化&レジャー 県立琵琶湖博物館のもよしもの案内	朝日新聞(アイアイ滋賀)
	9	ウエイクアップ関西 環境シンポ「関西ウオーター」基調講演 嘉田由紀子京都精華大教授	毎日新聞		7	「犬上川シンポ」18日に開催 嘉田由紀子琵琶湖博物館研究顧問がコーディネーターに	産経新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	8	環境シンポジウム「関西ウオーター琵琶湖・淀川との共生を考える」 嘉田由紀子京都精華大教授の基調講演の内要	毎日新聞	3	25	環境学習の情報交換 草津でこどもエコクラブ全国フェス	読売新聞
	9	琵琶湖の生物たち「ゼゼラ」(写真提供)	産経新聞		26	こどもエコクラブ「宣言」行い閉幕	毎日新聞
	11	「2001年滋賀の食事博」で桑村邦彦琵琶湖博物館主査が講演	読売新聞		26	<花しごと庭のたのしみ>京滋の見どころ花マップ	京都新聞
	17	<博物館が変わる>公営施設も利用者本位に 滋賀県立琵琶湖博物館	日経流通新聞		28	県立琵琶湖博物館の芦谷美奈子学芸員「ミュージアム・マネージメント学会」の学会賞を受賞	中日新聞
	18	環境学習に取り組む全国の子供らが集会 烏丸半島にて	読売新聞		29	県立琵琶湖博物館 絶滅危ぐ種の魚や貝紹介	中日新聞
	19	こどもエコクラブ全国フェス2001 烏丸半島にて	毎日新聞		30	琵琶湖の生物たち「タンカイザリガニ」(写真提供)	産経新聞
	23	ブラックバスめぐり論争 琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話	京都新聞		31	絶滅の危機に直面「レバノンスギ」国内での復活願い移植	中日新聞

4. 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌名等	月	記事テーマ	掲載雑誌名等
4	ここに来れば「琵琶湖博士」 まちがいなし「滋賀県立琵琶湖博物館」 春から学ぶ大特集 この博物館に注目！滋賀県立琵琶湖博物館 日本一の湖畔めぐり「琵琶湖周遊記」 アミューズメントスポットリスト「滋賀県立琵琶湖博物館」 <博物館>エンターメント編 滋賀県立琵琶湖博物館 4月文化施設の催し物「滋賀県立琵琶湖博物館」 まちのおもしろショット「体験して感動できる琵琶湖博物館」 おもしろ滋賀の博物館「琵琶湖博物館」	るるぶ情報版「'00関西遊園地&テーマパーク」 ケイコとマナブ vol.85 「ぶらっとおでかけ、おケイコスポート」 ボート倶楽部 春びあ（関西版） Kansai Walker マンスリーガイド京都・滋賀・奈良 オフィスゆう 読売京都ライフ	6	淡水魚コレクションで日本一の湖を楽しむ	Ladies'タウンページ
			7	湖国文化情報 琵琶湖博物館の催し物紹介 第8回琵琶湖博物館企画展示「湖の魚・漁・食-淡海あれこれ商店街-」の紹介 自然生きもの万歳 滋賀にトンボが多いのはなぜ？県立琵琶湖博物館榎永一宏学芸員<みんぱくいんたびゅう>こどもに学ぶ博物館づくり ハンズ・オン・プランナー染川香澄さん 琵琶湖博物館の紹介 '00JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「博物館・美術館」 '00JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「水族館」 琵琶湖を学べる施設紹介 エンジョイサマーびわ湖 2000年7・8月 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン開館にむけての近郊マップ「滋賀 湖のくに、水色のくに。」 アミューズメントスポットリスト「滋賀県立琵琶湖博物館」 7月文化施設の催し物「滋賀県立琵琶湖博物館」 KBS京都ラジオ番組プログラム 7月8月の特別展（全国の博物館）	れいかる<夏> 淡海（おうみ）NO.64 夢舞（むぶ）vol.1 みんぱく7 JR西日本パンフレット（夏） JR西日本パンフレット（夏） 2000年びわ湖まつり案内パンフレット JTB旅行パンフレット JTB旅行パンフレット 夏びあ（関西版） マンスリーガイド京都・滋賀・奈良 Listen 7月 全科協ニュース
5	親子で遊ぼう!!おもしろ博物館「滋賀県立琵琶湖博物館」 GW近くで遊ぼう!<自然とふれあいスポット> DRAIVE&CAR 琵琶湖 湖南をドライブ 東びわこ ヨーロッパ花街道 Ancient Lakes: their cultural and biological diversity	福袋（関西版） KANSAI 1週間 東海ウォーカー 美しいむらづくり事業 NewsWARP No.27			
6	君の不思議を探そう-楽しくて大切な琵琶湖- 琵琶湖博物館6 7月の催し物 琵琶湖をもっと好きになる!! ユニークな博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 6月文化施設の催し物「滋賀県立琵琶湖博物館」 Bravo!雨の日も楽しいカレンダー「滋賀県立琵琶湖博物館」 <人と川の新時代へ>「鮎寿司」-消えゆく伝統食 前畑政善 Leisure news 屋内型遊び場大集合!滋賀県立琵琶湖博物館 大人の居場所 滋賀県立琵琶湖博物館 <日帰りおすすめSPOT> 琵琶湖の自然を満喫する施設「琵琶湖博物館」	高等研<親子>サイエンス・スクール'99 びいめ・る Vol.14 りらっくらす通信 VOL.21 マンスリーガイド京都・滋賀・奈良 月刊 お母さん業界新聞 vol.14 河川文化 関西版 びあ ふれあい「京信年金友の会」会報誌 if mail vol.15			
			8	伝言板 夏休み自由研究相談 美術館8月そこに幸福を見る「滋賀県立琵琶湖博物館」企画展の紹介 8月文化施設の催し物「滋賀県立琵琶湖博物館」 全国温泉マップ<近畿>見学スポット紹介「琵琶湖博物館」 琵琶湖博物館8 9月の催し物 <レジャー>滋賀県立琵琶湖博物館紹介 滋賀おでかけインフォメーション「琵琶湖博物館」前編	にゅーすりやまNo.284 現代插花8月号 マンスリーガイド京都・滋賀・奈良 e（イー）温泉の歩き方 びいめ・る Vol.15 インターネット・インフォメーションシステム 京都府警察機関誌「へいあん」8月号

月	記事テーマ	掲載雑誌名等	月	記事テーマ	掲載雑誌名等
9	滋賀おでかけインフォメーション「琵琶湖博物館」後編 9月文化施設の催し物「滋賀県立琵琶湖博物館」 遊んで学べるアカデミックな”レジャースポット”体験、発見ミュージアム滋賀県立琵琶湖博物館 自然生きもの万歳 人々と文化をはぐくむ豊かな湖 県立琵琶湖博物館桑原雅之主任学芸員 '00 J R 近くて、いい旅 電車&ウォーク「博物館・美術館」 '00 J R 近くて、いい旅 電車&ウォーク「水族館」 秋晴れの日ふらりと小旅行「知的好奇心がさわぐ、水と歴史と環境の博物館へ」 Let's DRAIVE 琵琶湖編 県立琵琶湖博物館紹介	京都府警察機関誌「へいあん」9月号 マンスリーガイド京都・滋賀・奈良 Dフロント Vol.62	11	'00 ''01 J R 近くて、いい旅 電車&ウォーク「博物館・美術館」 '00 ''01 J R 近くて、いい旅 電車&ウォーク「水族館」	J R 西日本パンフレット (秋)
		夢舞 (むぶ) vol.2			J R 西日本パンフレット (秋)
		J R 西日本パンフレット (秋)	J R 西日本パンフレット (秋)	マンスリーガイド京都・滋賀・奈良 月刊 ミュゼ vol.44	
		ECRIN (エ克蘭) 大丸友の会情報誌 Simple No.236	美術館ガイドブック 夢舞 (むぶ) vol.3 じゅげむ Vol.41 冬びあ (関西版)		
10	湖国文化情報 琵琶湖博物館の催し物紹介 10月文化施設の催し物「滋賀県立琵琶湖博物館」 アミューズメントスポットリスト「滋賀県立琵琶湖博物館」 琵琶湖博物館10 11月の催し物 <新刊紹介>博物館を楽しむー琵琶湖博物館ものがたり 川那部浩哉編著	れいかる<秋> マンスリーガイド京都・滋賀・奈良 秋びあ (関西版)	12	12月文化施設の催し物「滋賀県立琵琶湖博物館」 Book Mnsee「博物館を楽しむ 琵琶湖博物館ものがたり」紹介 周辺案内 琵琶湖博物館紹介 自然生きもの万歳 鳥がつなぐ世界と琵琶湖 県立琵琶湖博物館亀田佳代子学芸技師 湖国20世紀アルバム (写真提供)・もよおしもの案内 アミューズメントスポットリスト「滋賀県立琵琶湖博物館」 滋賀県観光だより' 00 ''01 冬・春 <会員だより>琵琶湖博物館と田園空間博物館 内藤又一郎 琵琶湖博物館12 1月の催し物	農業土木第612号 びいめ・る Vol.17
		びいめ・る Vol.16 南紀生物第42巻第2号			湖国 VOL.76 農業土木第612号
11	滋賀県立琵琶湖博物館紹介 (写真提供) 琵琶湖博物館のイベント情報<研究最前線からのメッセージ>琵琶湖博物館・川那部浩哉先生 11月文化施設の催し物 「滋賀県立琵琶湖博物館」 琵琶湖へ行った平方の生き物たち カイエビの研究者グライガー博士の元へ 学ぶ交わる考える 滋賀県立琵琶湖博物館紹介 テーマは「湖と人間」滋賀県立琵琶湖博物館 周辺観光のご案内 空間演出型展示 第8回滋賀県立琵琶湖博物館の企画展示紹介	滋賀年金時報11月号 近江歴史回廊倶楽部会報 NATIONAL GEOGRAPHIC world 11月号 マンスリーガイド京都・滋賀・奈良 おあがえる通信 No.7 地方共済204 11月 はミング Vol.12 旅亭 紅葉パンフレット tansei. net 01	1	湖国文化情報 琵琶湖博物館の催し物紹介 <記念対談>弘中和歌子氏・國松善次氏 <特集 水とひとと暮らし> 21世紀の水とひとと暮らし 嘉田由紀子 <文化と環境を考える>ハンズオンとこれからの展示手法 柴川香澄・芦谷美奈子 びわ湖の足あとの入口 琵琶湖博物館紹介 琵琶湖&川の魚 1999年年間入場者ベストランキング200 '01 J R 近くて、いい旅 電車&ウォーク「博物館・美術館」 '01 J R 近くて、いい旅 電車&ウォーク「水族館」	れいかる<冬> ELCO RADAR vol.5 pure Vol.37 Cultivate No.13 もみの木 No.223 滋賀の環境ー淡海の環境のてびきー2001 レジャーランド&レクパーク総覧2001 J R 西日本パンフレット (冬) J R 西日本パンフレット (冬)
		2			「ECOLOGICAL RESEACH」の書評 <特集>水の文化楽習プログラムを考える 嘉田由紀子氏・小坂育子氏

月	記事テーマ	掲載雑誌名等	月	記事テーマ	掲載雑誌名等
2	びわ湖へ行こう！（春 夏） フリープラン（春）自由に楽しめる旅 さっふい日の遊び場決定版！！ 琵琶湖博物館2 3月の催し物	赤い風船パンフレット ジェイティービーパンフレット CHEEK 2月号 びいめ・る Vol.18	3	あちこち訪問記 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館紹介 近くて、いい旅 電車&ウォーク「JR日帰り情報カレンダー3月」 <特集>風物語 湖国の風を探る「ピワコダス」戸田孝 <読者からの手紙>世界中の低湿地遺跡を網羅した'古代湖の考古学'を読む <店長おすすめタウンガイド>滋賀県立琵琶湖博物館紹介	はとハート情報誌アクティブ 新世紀関西年鑑2001 JR西日本パンフレット FRONT（水の文化情報誌）3月 科学 Vol.71No.3 Fresh Vol.8（九州屋コミュニケーション・マガジン）

テレビ放映、ラジオ放送記録

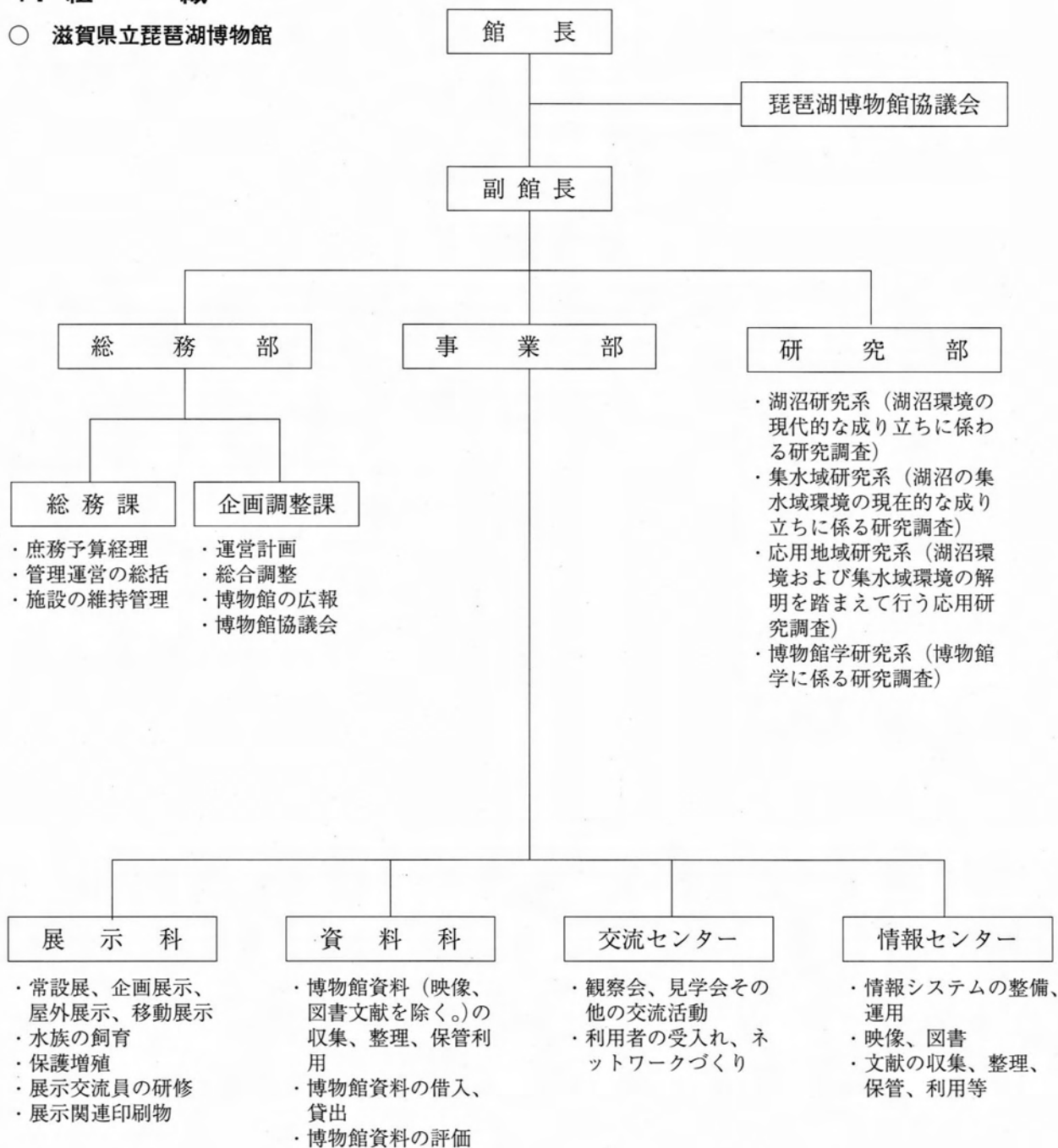
放送日	番組名	内容	媒体	
5	1	FNNスーパーニュース	フジテレビ系全国ネット	
	14	淡海 しん・湖・きゅう	KBS滋賀ラジオ	
	8	11	淡海 しん・湖・きゅう	KBS滋賀ラジオ
		10	食べたいな！いききたいな!!	Perfec TV グリーンチャンネル
6	4	サンデー11しが	びわ湖放送	
	21	環境スペシャルー八堂湖の未来	韓国放送公社KBS	
	23	県広報番組	びわ湖放送	
	24	ジップ探偵団	関西テレビ	
7	5	りらくらす	びわ湖放送	
	5	山崎弘士の満員御礼!	KBS滋賀ラジオ	
	7	Shiga Public Wave	エフエム滋賀	
	11	ぶるるるぶびわこ・ニュースウェーブしが	びわ湖放送	
		開運!なんでも鑑定団	テレビ東京系	
	11	ニュースパーク関西	NHK	
	12	ぶるるるぶびわこ(ニュース)	びわ湖放送	
	12	さんさんわいど滋賀	KBS滋賀ラジオ	
	12	桂九雀のワイワイじゃーなる	ラジオ大阪	
	15	ザ・スクープ 検証ブラックバス問題	琵琶湖博物館の紹介 外来魚問題に関する様々なインタビュー	テレビ朝日(全国)
		17	Radio Japan「44Minutes」	琵琶湖における外来魚の現状およびわが国における外来魚の現状と問題点に関する質問 バス釣りを考える
	18	ニュースパーク関西	丸子船、湖の魚・漁・食 淡海あ	NHK
	19	ニュースパーク関西	れこれ商店街	NHK
	21	ニュースパーク関西	タンガニイカ湖の展示	NHK
26	山崎弘士の満員御礼	ラジオカーリポーター イベント	KBS京都ラジオ	
30	話題にアタック 水の命を守れ!	琵琶湖博物館紹介	フジ系列(共同テレビ)	
8	3	BBCニュース	子ども1日学芸員	びわ湖放送
	5	WE LOVE びわ湖2000	ビワマスの生態について	びわ湖放送
	5	おはよう 朝日です。土曜日です	ぐるっと関西 旅気分	朝日放送
	10	ガラスの地球を救え!	琵琶湖博物館で環境を考えよう	朝日放送
	11	ぶるるるぶびわこ(デイリー情報しが)	湖の魚・漁・食 淡海あれこれ商店街	びわ湖放送
		14	歴史街道 ロマンへの扉	琵琶湖の夏
	16	科捜研の女	ミジンコ(楠岡さん所有のもの)	テレビ朝日系列
	18	週間!まるごとしが	博物館水族関係施設・スタッフの作業風景	びわ湖放送
	22	ズームイン!朝!!	琵琶湖の渇水	読売テレビ
	22	おはようコールABC	企画展「湖の魚・漁・食」	朝日放送
	22	京都のDNA#39石田紀郎	関西テレビ放送編成局CS部	CS京都チャンネル

放送日		番組名	内容	媒体
9	10 16 27	リバプレ専科 近畿は美しく BBCニュース	ヨシ笛づくり 琵琶湖の船の物語 子ども1日学芸員絵画・作品展 について	びわ湖放送 毎日放送 びわ湖放送
10	13 17 14	ニュースウエーブしが Radiant Morning	「シリーズ湖国」琵琶湖の魚の 紹介 SPACE VIEW 琵琶湖博物館紹介	びわ湖放送 αStation
11	8 27	日本各地の風景を全世界に放送 ・配信 おはようコールABC	琵琶湖の紹介 琵琶湖の現状の紹介	NHK映像国際放送 ABC朝日放送
12	1 20 22 22	週間！まるごとしが ニュースパーク関西 関西発ラジオいきいき倶楽部 清流伝説！命の水の流れを求めて ・・・5万キロ!!	野鳥の観察や調査のやり方について 「住宅の変遷」特集コーナー 「くらしセンスアップ」博物館とは？	びわ湖放送 NHK NHK大坂ラジオ TBS系ハイビジョン
1	5 13 19 20 31	ニュースパーク関西 ニュースパーク関西 週間！まるごと しが Voice ニュースパーク関西	21世紀を占う様々な有識者、専門 家などにインタビュー 体験学習の日の紹介 ナマズの生態・講座の内容など こんな大発見！大阪の生物大好き 高校生 インタビュー 足跡化石研究家 岡村嘉明	NHK NHK びわ湖放送 毎日放送 NHK
2	24 27	道徳の時間 おはよう日本	ブラックバス釣りが生態系に与える 影響について 外来種シジミについて	日本テレビ系全国 NHK
3	4 5 8 24	ローカルニュース ニュースパーク関西 京都大好ラジオ 報道原人	水族展示の舞台裏 海外からの研修生に対して陸水学 の実習をする意義は？ (ミミズは鳴くか?) 日本のアユがあぶない！どう猛ブ ラックバスの脅威	NHK NHK KBS京都ラジオ 東海テレビ

Ⅲ 組織および運営

1. 組織

○ 滋賀県立琵琶湖博物館



職員構成 (2000年4月1日現在)

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	12	29	3	45	17	62

2. 職 員

2000年4月1日現在

○館 長 川那部 浩 哉

○副館長 西 岡 信 夫

総務部

○部 長 丁 野 永 正

◇ 総務課

課長(兼) 丁 野 永 正

課長補佐 千 代 文 一

主 幹 小 森 啓 二

副主幹 西 澤 崇

主任主事 馬 場 聡 史

同 西 村 佳 子

主 事 中 山 将 人

◇ 企画調整課

課長(兼) 高 橋 啓 一

主 幹 藤 川 剛

(兼) 八 尋 克 郎

(兼) 里 口 保 文

(兼) 橋 本 道 範

(兼) 亀 田 佳 代 子

事業部

○部長(兼) 布 谷 知 夫

◇ 展示科

科長(兼) 用 田 政 晴

(兼) 中 川 元 男

(兼) アンドリュー ロシター

(兼) 戸 田 孝

(兼) 松 田 征 也

(兼) 牧 野 久 実

(兼) 山 川 千 代 美

(兼) 宮 本 真 二

◇ 交流センター

科長心得(兼) 楠 岡 泰

主査(併任) 森 田 光 治

主査(併任) 横 山 泰 史

主任主事(併任) 中 川 修

(兼) 内 藤 又 一 郎

(兼) 桑 村 邦 彦

(兼) 長 崎 泰 則

(兼) 桑 原 雅 之

(兼) 牧 野 厚 史

(兼) 芳 賀 裕 樹

(兼) 矢 野 晋 吾

◇ 資料科

科長(兼) 前 畑 政 善

(兼) 草 加 伸 吾

(兼) 中 藤 容 子

(兼) 榊 永 一 宏

◇ 情報センター

科長(兼) 秋 山 廣 光

(兼) マーク ジョセフ グライガー

(兼) 中 井 克 樹

(兼) 芦 谷 美 奈 子

(兼) 大 塚 泰 介

研究部

○部長(兼) 中 島 經 夫

◇ 湖沼研究系

総括学芸員 中 島 經 夫

◎主任学芸員 楠 岡 泰

同 アンドリュウ ロシター

同 中 井 克 樹

同 戸 田 孝

同 松 田 征 也

同 牧 野 久 実

学 芸 員 芦 谷 美 奈 子

同 里 口 保 文

同 中 藤 容 子

学 芸 技 師 芳 賀 裕 樹

同 亀 田 佳 代 子

◇ 博物館学研究系

◎総括学芸員 布 谷 知 夫

専門学芸員 秋 山 廣 光

主任学芸員 マーク ジョセフ グライガー

学 芸 技 師 橋 本 道 範

(兼) 森 田 光 治

(兼) 横 山 泰 史

(兼) 中 川 修

◇ 集水域研究系

◎専門学芸員 高 橋 啓 一

主任学芸員 草 加 伸 吾

同 八 尋 克 郎

学 芸 員 山 川 千 代 美

同 榊 永 一 宏

学 芸 技 師 牧 野 厚 史

同 矢 野 晋 吾

同 大 塚 泰 介

◇ 応用地域研究系

専門員(兼) 内 藤 又 一 郎

◎専門学芸員 前 畑 政 善

同 用 田 政 晴

主任主査(兼) 中 川 元 男

主 査 桑 村 邦 彦

同(兼) 長 崎 泰 則

主任学芸員 桑 原 雅 之

学 芸 員 宮 本 真 二

注) ◎は各研究系代表

臨時的任用職員・嘱託員

嘉 田 由 紀 子 研究顧問

松 木 ひろ子 総務事務

堀 出 佳 代 子 同

小 菅 由 有 子 館長秘書

宮 田 輝 美 同

山 中 裕 子 ディスカバリールーム運営

瀬 川 也 寸 子 同

谷 崎 誠 三 展示物の製作・維持補修

馬 場 加 依 子 地学標本整理

山 口 幸 江 昆虫標本整理

細 川 真 理 子 歴史民俗資料整理

桑 垣 瑞 植物標本整理

小 関 義 正 実習補助・団体利用受付

勝 島 治 美 屋外展示運営

吉 村 仙 二 郎 生活実験工房運営

濱 尾 研 児 メディアラボ印刷・業務機器保守管理

生 津 恵 子 図書情報利用室運営・図書資料整理

3. 予 算

平成12年(2000年)度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	196,843,653
財 産 収 入	3,256,400
雑 入	171,153
合 計	200,271,206

平成12年(2000年)度歳出状況 (円)

事 業 名	業 務 内 容	決 済 額
管 理 運 営 費	施設維持費、烏丸半島整備、事務費	353,933,176
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	273,592,878
展 示 事 業 費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物	209,004,599
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	94,873,714
合 計		931,404,367

4. 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

開催日時 2000年11月20日（月）13：30～16：30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

第3期委員

（任期：2000年9月1日～2002年8月31日）

氏 名	区 分	現 職
中 西 洪 之	学校教育	守山市立速野小学校 校長
南 出 義一郎	学校教育	野洲町立野洲北中学校 校長
木 邊 美	社会教育	ガールスカウト日本連盟滋賀県支部 支部長
東 洋 子	社会教育	滋賀県商工会女性部連合会 会長
荻 野 和 彦	学 識 者	滋賀県立大学環境科学部 教授
西 野 嘉 章	学 識 者	東京大学総合研究博物館 教授
内 田 紘 臣	学 識 者	串本海中公園センター 館長
染 川 香 澄	学 識 者	ハNZ・オン・プランナー
上 杉 彰	学 識 者	びわ湖放送報道制作局 局長
日 高 敏 隆	学 識 者	総合地球環境学研究所 所長
西 野 麻知子	学 識 者	滋賀県立琵琶湖研究所 総括研究員
岡 本 幸 助	学 識 者	滋賀県脊髄損傷協会 会長
古 川 研 二	学 識 者	草津市長
富 田 裕 作	学 識 者	公募委員
福 田 郁 理	学 識 者	公募委員

Ⅳ 博物館利用のご案内

■開館時間 AM9:30～PM5:00 (入館はPM4:30まで)

■休館日 毎週月曜日(休日である場合を除く)・休日の翌日(土・日曜となる場合を除く)
・年末年始(12月28日～1月3日)

■観覧料金(常設展)

	個人	団体(20人以上)	共通券(*)
小学生・中学生	250円	200円	320円
高校生・大学生	400円	320円	520円
大人	500円	400円	650円

※未就学児、県内居住の65歳以上の方と障害のある方ならびに県内の学校行事としての観覧は無料です。
(詳細についてはご確認ください。)

※企画展は別途料金となります。(開催期間中)

*草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。なお、団体は取り扱いません。

■交通案内

●JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖(東海道)線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。

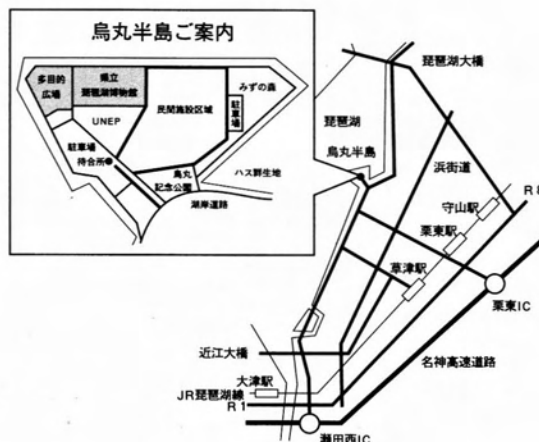
・「草津駅西口」から、近江鉄道バス「鳥丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車(約22分)。タクシーで約20分。

・「守山駅西口」からタクシーで約20分。

●車では、名神高速道路「栗東I.C」から国道1号線を草津方面へ。信号2つ目「上鈎」で右折。湖岸道路につき当たって(「湖岸志那中町」)再度右折し、約1kmで「鳥丸半島」へ。

●航路では、琵琶湖汽船のシャトルボートが「大津港」「びわこ大橋港」「堅田港」「雄琴温泉港」から「草津鳥丸半島港」へ

(問い合わせ先:琵琶湖汽船077-524-5000)



■駐車料金

大型バス	1,600円	マイクロバス	1,050円
普通車	500円	二輪車	200円

*博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

【館内のご案内】

質問コーナー:学芸員が図書室のカウンターでみなさんからのご質問にお答えしています。

フロアトーク:平日には学芸員がPM2:00から担当の展示コーナーで説明を行っています。

【催し物案内】

ミュージアム観察会:博物館のまわりで自然観察したり、館内の施設で実験・実習を行います。

フィールド観察会:県内各地のフィールドで地域の自然や人々のくらしを見つめ直します。

博物館探検:普段は見ることのできない博物館や展示室の裏側を学芸員が紹介します。

博物館講座:一般の方を対象に専門的な内容をわかりやすく数回連続でお話しします。

博物館入門セミナー:琵琶湖博物館の活動や展示を幅広く知ることのできる連続講座です。

(事前に往復ハガキで申し込んでください。詳しくは、Fax サービス(077-568-4844)、インターネットホームページ(<http://www.lbm.go.jp/>)で案内しています。)

琵琶湖博物館 年報 第5号

平成13(2001)年7月 発行

編集・発行 滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

電話 077-568-4811

印刷 アインズ株式会社

©滋賀県立琵琶湖博物館 2001

Printed in Japan

R100 この冊子は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

